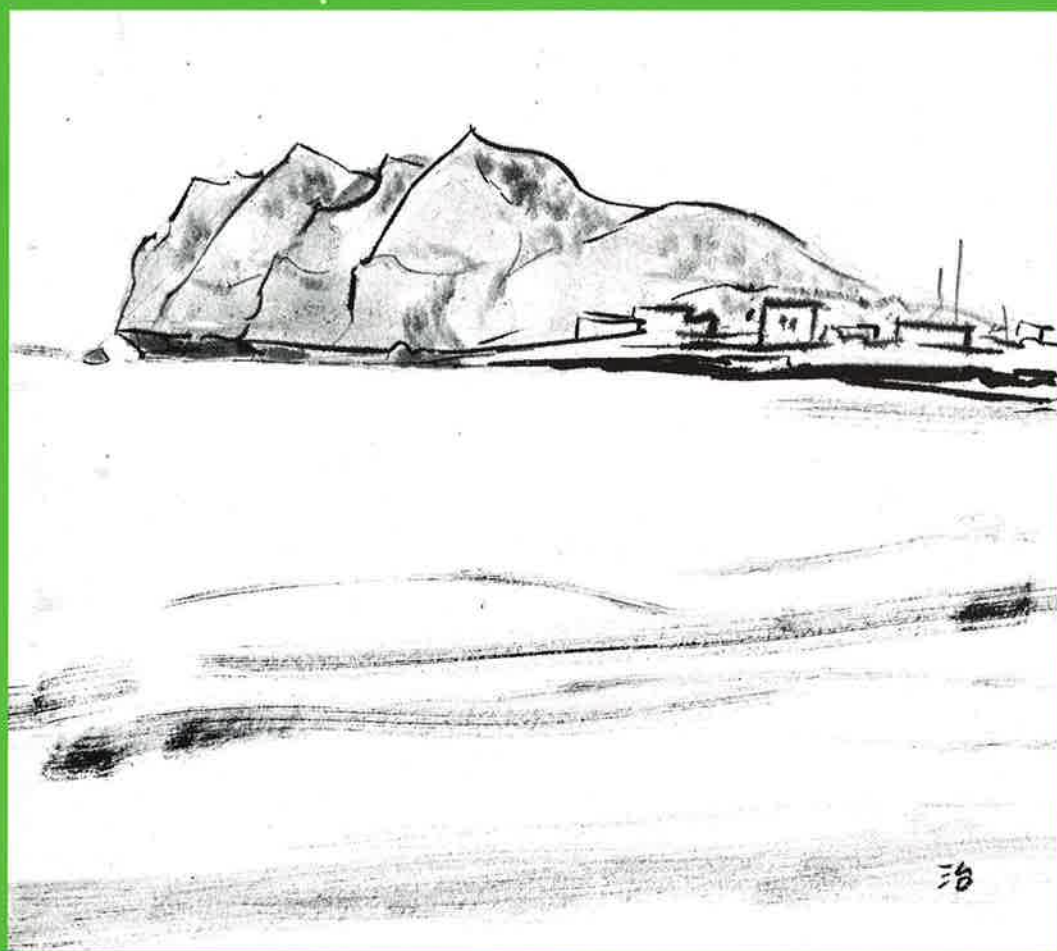


波と鳥

第 6 号 1985



室蘭市医師親交会誌

波 々 鳥

第 6 号 1985

室 蘭 市 医 師 親 交 会 誌

目次

表紙 イタンキ岬 加藤 治良
カッタ 吉井 正仁
竹内 隆一

親交会記念アルバム

木内 綾 女史 御麗筆

会長就任挨拶

杏林窓語

漢方医学とベルクソンの哲学

会員異動

成人病検診のすすめ

座談会

四奇人・流れ放談

〔米沢 堡 山本 健三郎〕
〔斉藤 義寛 阿部 昭治〕 他編集委員

わが青春

大正っ子物語

遠い季節

加藤 治良

遠藤孝二郎

20

19

13

9

8

4

3

1

1

遺稿

かなり古いお話(その四)

小雲水

24

あんらくいす

25

日本飛び歩く記

藤兼和男

医者の出る幕 出れぬ幕

松田幹人

ぼうふら考現学

安斉哲郎

チベット弥次旅行記(続)

米沢堡

第十九回

北海道ドクターズ

ゴルフ大会を終えて

大会長

原田一洋

運営委員長

遠藤秀雄

親交会 函館旅行記

41

岩倉秀夫
山本健三郎
松原初男
児玉直彦

編集室へのお便り

49

編集後記

50

親交会記念アルバム
 は、久々の会誌と意を
 込めて、この冊子を
 発行いたします。この
 冊子は、親交会の
 歴史と現状を、一
 目瞭然とすることが
 でき、また、親交
 会の発展に、一
 層、力となること
 を期して、この冊
 子を発行いたします。

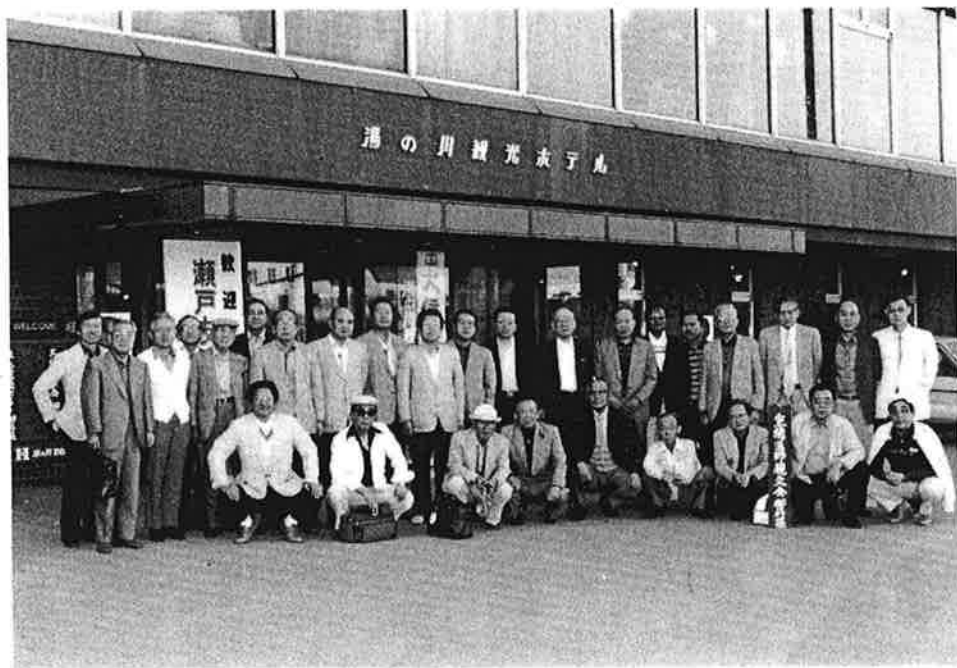


親交会記念アルバム

室蘭市医師会史発刊記念祝賀会 昭和47年 9 月20日 産業会館

優佳良織・木内綾 女史の御麗筆

湯の川観光ホテル
 へようこそ
 木内綾
 優佳良織



函館 湯の川観光ホテル前にて 昭和60年 6 月15日



御挨拶

会長 上田 智 夫

四期八年間にわたって医師会長をつとめられ、多くの業績を上げて名会長の名をほしいままにされた原田先生が勇退され、まことに不本意ながら私があとを引き継ぐとともに、職権として親交会会長もお引き受けることになりました。まこと菲才ではありますが、今後の諸先生の御支援のほどを心からお願い申し上げる次第です。

本年は悲しい事が相つぎ、本誌に三年間に亘って「かなりお古い話」を連載中であつた小雲水こと北原隆先生が、解離性大動脈瘤で、またくしくも会誌五号に「自殺か他殺か」を寄稿された湊武雄先生が、びまん性間質性肺炎に伴う心不全でなくなられ、因縁めいたものを感じております。

医界を取まく情勢は日に日に厳しさを増しておりますが、先生方には充分御健康に留意され、益々御元気で活躍される事をお祈りするとともに、本誌をコミュニケーションの場として、より楽しい交流の輪を広げたいものと考えております。

杏林窓語

漢方医学とベルクソンの哲学

竹内 隆 一

はじめに

漢方医学はわが国に渡って、日本流の漢方となって現在に至っておりますが、その流れを素問に求めるもの、あるいは傷寒論、金匱要略に求めるものなどがあります。

いづれにせよ漢方医学の特色は人体の病変をベルクソンのいう持続（デュレ）においてとらえることでありましょう。

私は漢方に関しても浅学な未熟者ですが、素問を読んで、その中心をなす「氣」という概念がベルクソンのエラン・ピタールの思想と非常に似たものであると思いました。これに関しては既に北海道医報にも発表しましたが、その後澤瀉久敬（おもたか ひさゆき）先生の著書を読むに及んで、漢方の根底をなす理論は極めてベルクソンのあることに興味をもちました。

澤瀉先生は私から申すまでもなく世界にさきがけて医学概論を体系づけられた方ですが、これからの漢方医学を発展させるには

先生のお考えこそ大切な指針になるものと思います。よってその名著「医学の哲学」より表題の項目について解説を試みた次第であります。少し長くなりますが終りまで通読していただければ幸いです。順序として僭越ではありますが私からベルクソン哲学の概略を紹介致します。

Henri Bergson (1859~1941)

生命の哲学者で二十世紀前半最大の哲学者と評される。

彼によれば偉大な哲学にはその底に一つの哲学的直観があるといる。一つの哲学を理解することはその哲学者の著書全部を通読することではない。それらの著作を開花させた、その源泉にひそむ哲学者自身の哲学的直観そのものを会得することではなければならない（澤瀉）。

それではベルクソンの哲学的直観は何であったか、それは「時間」に対する彼の直観である。われわれは普通時間は時計によって示されると思っている。しかし時計にあるのは一つの面（円盤）と二本の針だけである。時計の針の刻々の位置の変化に即して意識自体が流れておることから時が流れたと意識が感ずるのである。時計そのものは何時の場合にも空間の一つの面上の二つの線の位置しか示さない。すなわち空間の二点を指しているだけである。要するに時間は時計にあるのではなく意識にあるのである。

現実の意識は刻々変化している。厳密に言えば、意識は刻々というふうには切目をいれることが出来るものではなく、ちようど音楽をきいている時の意識状態のように過去と現在、現在と未来が混入して、ただ質的变化をもって流れているのである。そしてそれこそ時間というものである。時間は常に流れている、流れつつあるものが時間である。

時計の時間は流れている時間ではなく、流れた時間である。しかも流れた時間は位置づけられた時間であり、それは実は空間で

ある。真の時間は純粹意識であり、純粹意識は流動する質的な変化である。そのような流れる時間をベルクソンは持続（デュレ）と呼んだ。純粹持続をあるがままの姿でとらえるものは直観である。

ベルクソンの哲学は次の四つの主な著書よりなっている。

一、時間と自由（心理学）

二、物質と記憶（生理学）

三、創造的進化（生物学）

四、道徳と宗教の二つの源泉（社会学）

これらのうち創造的進化には生命の哲学が体系的に述べられている。彼の有名なテーゼは「エラン・ビタール」「生命の飛躍」である。彼によれば、

生命の最初の段階にある有機体といえども、私たち人間と同じように生存の条件にうまく適応している。私たちが今日見ることの出来る生命の形態は古生代のいばん古い時代から既にあったものである。そしてその生命の形態は多くの時代を通じて今も変わらずに存続している。それ故生命が一定の形態に停止するのは不可能ではなかったはずである。

しかるになぜ生命は前進したのか？

生命の進化を一瞥すると内的推進力が実際に働いているという感じをもたないわけにはゆかない。

生命を一定した方向でますます複雑度の高いものと運んで行くものは外的要因の機械作用ではなく、生殖細胞から生殖細胞へと、多くの個体を経て移って行き生物を進化させる内的推進力である。すなわちこれがエラン・ビタールで、エラン・ビタールは遺伝現象上の生命力という仮説である。

つねに自己を創造してゆくものこそ生命なのである。生命とは創造的進化なのである。生命はアリストテレスの説くごとき

に向つてとぶ矢のように一直線に進化するのではなく、火花が四方に炸裂し、その分散した火花がさらに四散するように、分散に分散を重ねて進化するのである。

生命にとって本質的なことはただ太陽のエネルギーを徐々に蓄積することである。そのようにして蓄積したエネルギーを一挙に爆発させることによって外界に一つの作用をなすことである。

ベルクソンは自然科学にとつては対象となりえない人間の意識の問題、本能と知性また社会性や宗教まで、生命一般を進化の相から考察した。

漢方医学について

漢方医学の骨格をなす陰陽・五行説は古代ギリシャの四元素説にも比すべきものであるが、ギリシャの科学が近代科学の源流になりえた要因の一つは彼らが自然界には法則が存在することを確信していたからであり、その後ユークリッド幾何学と結びついて近代科学誕生の基礎となった。しかし中国においてはそのような結びつきはなく、また実験的方法を欠いたことが近代科学への発展をさまたげたのである。

西洋医学の流れに育ったわれわれは漢方は非科学ではなく末科学なのであるから、それを科学化することこそ現代の漢方医学者或は漢方に興味をもつ医師に課せられた仕事であると思つている。近年漢方医学は一九四九年の解放以後に全国的な規模で再編成され、新に中医学として体系づけられたのであるが、その解剖学はきわめて不完全であることは否定出来ない。たとえば五臓六腑の説なども到底われわれを首肯させ得るものとはいえないのである。しかし漢方は解剖学的知識の不足を生理的知識すなわち身体機能に対する実際の、経験的知識によって補っている。ことに身体の正常なほたらきいわゆる生理的機能ではなく、異常なほ

らきすなわち病的生理については、漢方はそれを無数の経験を通じてきわめて広くかつ深くとらえていたのである。しかもその知識をただ個別的にばらばらにもつていたのではなく、それらを整理整頓して一つの体系として知識化したのである。その一つの典型をわれわれは経絡、経穴説において認めることが出来る。

経絡、経穴の説

経絡説は漢方医学の根幹をなすものであるが、いったい経絡とは何であるか。経絡説は西洋医学にとつてはなほ難解なむしろ不可解とさえいえる理論であるが、経絡説に従つて処置することによつて、漢方が治療的に西洋医学を驚かす実績をしばしばあげることゝ事実である。

ではこの経絡とは現代の解剖学的立場から見ても何に相当するのであるか。この点について中谷義雄博士は良導絡の説を示し、治療的にも注目すべき成果をあげている。経絡はまた神経系であるという見方や体液系とする考えも可能である。

経穴説の特異性は内臓その他身体内部の病変を身体表面において感知し治療するということである。ここに漢方独特の術語としての「表裏」「内外」の思想も生れてくるのである。

ともかく経絡経穴説は西洋医学的な解剖学なくして病気を治療する機能中心の医学の性格を最も明瞭に示しているのである。

以上漢方医学と西洋医学はその原理を異にするものであるが、それは結局両者のもつ生命観の相違に由来するものと考えられる。西洋医学の根底をなすものはデカルトの二元論であり、漢方医学の生命観はベルクソンの一元論である。

生命とは何か

生命の正しい姿をとらえるには、それに応ずる概念がなければならぬ。われわれが普通生命とよんでいるものは単に物質ではなく単なる精神でもなく、その二つが結びついているところにそ

の特色があると思われる。ではまず精神とは何であるか？物質とは何か？デカルトは精神を特色づけるものは思惟であり、物質の本質的特徴は延長であると考えた。それでは心と体その二つのものはどのようにして結びつき、また、その結合を特色づけるものは何であるか、しかしきわめてはつきりした二元論の立場に立つデカルトにとつてそれは非常に困難な問題である。

デカルトとベルクソンの根本的な相違はデカルトが空間的な立場に立つのに対しベルクソンは時間の立場で一切を論じている点にある。ベルクソンの時間の立場に立つならばこの両者は対立しながらしかも相通じるものである。

生物体は人間の体だけではなく、多種多様な生物が地上には存在し、しかもそれらは今あるように昔から存在したのではなく、太古の原始的形態から現在の姿に発展したと考えねばならない。とすれば、いったい生物の進化はいかなるものであつたか。その進化を正しく理解することこそ生の哲学の根本問題である。この問いに対するベルクソンの答はすでに周知の如く「エラン・ピタール」という思想である。

一方ベルクソンをさかのぼる二千数百年前に編集された素問において、人は出生前母の胎内において形成され臍帯が衝・任の二脈（経絡）につらなり母体と相通じることによつて先天の「氣」を生れながらにうけつぐという。われわれの存在を達観するに、われわれは遺伝のあらわれとして永遠の過去と未来を含む生命の流れのなかに現在実存している。この「氣」という概念はベルクソンの「エラン・ピタール」の仮説と互に通じあうものである（竹内）。

更に漢方医学の特色とベルクソンの哲学の類似点について

近代医学における大きな難問の一つはフィルヒョウ的細胞生理学のアトミズムと分析主義をいかに乗り越えるかにある。その流

れを、われわれはハンス セリエ或いは現代ソビエトの医学を特色づけるパヴロフまたブイコフに於て見ることが出来る。

漢方は身体そのものについては人間を単に肉体としてではなく心身の結合体として論じている。たとえば体の失調が精神面に反映されるとともに、逆に精神的ストレスが体に影響を与える、これは内傷七情といわれるが、漢方では肉体と精神の相互関係についても十分な認識をもっている。

ベルクソンの哲学は事象を「持続の相のもとに」とらえる哲学である。漢方も病気を刻々の時間的変化に即してとらえるとともにそれに従って治療する。それが漢方医学の最大の特色である従証治療である。

漢方では西洋医学のように病気に病名をつけないということも正にベルクソンの思考である。ベルクソンは観念すなわちものの名前は色あせてこわばった生命なき枯葉である。動きこそ実在であり、それに反して固定した言葉や名前は走馬燈の切紙人形の影にすぎない。漢方はそのような影ではなく生の動きをとらえようとする。

病気の診察に関しては特にベルクソンの性格が漢方の診察において認められる。病人の症状の全身の把握ということ、個々の症候に対しても、それを症候群としてとらえるところに漢方の特色があるが、分析よりも総合を重んずることこそベルクソン哲学の根本的特色であるからである。

病気の診断とは病変を解剖学的に、空間的に位置づけることではなく、正常の生理的状态からの「ずれ」をとらえることでなければならぬ。したがってまた治療とは病者を正常の機能状態につれ戻すことでなければならぬ。

要するに漢方は機能中心であって解剖学中心ではない。漢方医学こそ正に時間的医学である。漢方医学の底にある生命論はベル

クソンの生命論である。その意味において漢方医学を基礎づける哲学があるとすればベルクソンの哲学こそ正にそれに値するものである。

空間的医学はデカルトに発する合理主義的医学すなわちいわゆる西洋医学である。そうしてその医学は人類に大きな貢献をもたらしたのであり今後もそれを続けるであろう、われわれはその発展のためにどこまでも努力せねばならない。しかしこの空間医学には欠点がある。同様に漢方医学にも欠点はある。したがって価値の問題は別に論じなければならない。

漢方医学の現代的意義

漢方の欠点は科学性をもたぬということである。では科学性とは何か。それは何よりも客観性をもつということである。客観性とは「誰でも何処でも」ということであるが、ここに漢方最大の欠点がある。漢方の未科学性を科学化すべきであるという主張は正しい。しかし問題は科学化だけが現代の漢方医学に課せられた仕事であるかという点である。

現代人は「科学化」という言葉を神秘化しそれを無批判に絶対的に価値あるものと考えている。だがベルクソンが詳細に論じたとおり科学的なものは本来生命を知るにはふさわしくないものである。デカルトが確立した自然科学は生命のない物質を解明し利用するためにはまことにすばらしい道具である。しかしそれは生命の理解には適しないのである。

ここに生命の哲学であるベルクソンの思考のうえに形成されている漢方医学の意義が改めて見直されねばならぬ。漢方を単に科学化することは漢方を否定し去ることである。科学にはそれが本質的に含んでいる欠点がある。それを補うものこそ医学の領域においては漢方医学なのである。

漢方医学は自ら自己の本質を自覚し、その独自の長所を發展さ

せるために努力すべきではなからうか。

—引用文献—

澤瀉久敬 医学の哲学 誠信書房

小曾戸・浜田 意釈 黄帝内経素問 築地書館

世界の名著 中国の科学 中央公論社

世界の名著 ベルクソン 中央公論社

中医学入門 神戸中医学研究会編著 医歯薬出版社

小川信一 自然、人間、時間 八坂書房

竹内隆一 黄帝内経素問の「気」とベルクソンの「エラン・ピ
タール」について 北海道医報 第五四二号



会 員 異 動

昭和59.9～60.8

月日	事由	氏 名	備 考
59. 10	転 出	川 口 柳之助	千葉県印旛郡印西町内野2丁目5番8～601号
〃	入 会	安 田 隆 義	室蘭市新富町1丁目5～13 日鋼記念病院
〃	〃	辻 寧 重	室蘭市新富町1丁目5～13 日鋼記念病院
〃	〃	村 上 俊 吾	室蘭市新富町1丁目5～13 日鋼記念病院
59. 12	〃	村 上 匡	室蘭市常盤町2～11 市立室蘭総合病院
60. 4	〃	松 原 初 男	室蘭市中島町3丁目32～15 三 村 病 院
60. 5	〃	菊 入 剛	室蘭市常盤町2～11 市立室蘭総合病院
〃	逝 去	北 原 隆	
60. 6	〃	湊 武 雄	

成人病検診のすすめ

菊 入 剛

月日の経つのは早いもので、北原先生が解離性大動脈瘤で急逝されてから、はや、三か月がたっている。普段、健康に自信のあった方に起こった出来事であっただけに、我々の驚きも一方ならぬものがありました。室蘭市医師会親交会の大久保幹事から、健康管理に役立つ啓蒙記事を書くように命じられたのもこのような時でした。元来、筆不精な私に、十分に責をはたせる自信などありませんが、臨床の場で日頃、感じている二、三のことを専門にしている循環器疾患について、述べさせて頂きます。

厚生省の人口動態統計によれば、日本では年間三十万以上の人が高血圧と関係の深い病気で亡くなっています。最近では、悪性新生物（癌など）に第一位は譲ったとはいえ、脳卒中は全死亡の二五％、心臓病は一五％とそれぞれ死因の二位、三位をしめています。先ず、高血圧の問題から始めましょう。

高血圧の恐ろしさは危険な合併症をひき起こすことにあります

高血圧症という病気は、時にめまい、頭が重い、耳鳴り、肩凝りなどの症状が出ることもあります。そのため、適切な管理や治療が行なわれずに経過し、いろいろとやっかいな病気がおこってから大騒ぎになっているのが現状です。高血圧の状態が一定期間以上続くと、その負担によって臓器の働きが障害されます。とくに脳や心臓、腎臓などに影響があらわれます。たとえば、脳では、高血圧は脳動脈硬化の進行を促進し、脳出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作、高血圧性脳症などの病気を引き起こすことになります。また、心臓では圧負担にたいする反応として心肥大が起こり、鬱血性心不全の原因になったり、心臓を栄養している冠状動脈の動脈硬化が促進されて狭心症や心筋梗塞などを起こしたりします。

高血圧が続くと、高血圧のない場合にくらべ、狭心症や心筋梗塞になる危険は二倍ないし三倍にもなります。腎臓では腎硬化、萎縮腎などが起こり、尿毒症にまでいたることがあります。そのほかに、大動脈の粥状動脈硬化を基盤にして、大動脈瘤などの危険な合併症が引き起こされます。

高血圧は動脈硬化を促進する

健康な人の動脈は柔軟で弾力に富んでいるがこれが病的に変化すると、硬くなり、血管の内膜が脆くなり、内腔が狭くなってきます。これが動脈硬化ですが、大きくわけて加齢によって起こる生理的動脈硬化と、危険因子にさらされて進行する病的動脈硬化があります。人間は血管とともに老いるといわれ、生理的動脈硬化は生をうけたものにとつて避けて通ることの出来ないことから、病的な方は何とかしてくい止めたり、軽減したいものです。統計的な事柄で恐縮ですが、ここで東京都養育院の成績を示

してみます。この成績は六十歳代から九十歳代までの剖検症例によるものですが、大動脈硬化は粥状硬化の広がり複雑病変の程度により、脳動脈硬化は粥状動脈硬化の広がり狭窄度を加味しました冠動脈硬化は主幹三枝の狭窄度の合計で比較されています各年齢群での動脈硬化の頻度を見ますと、大動脈では高度硬化例は六十歳代 一七・八%、七十歳代 三四・五%、八十歳代 四九・五%、九十歳代 五〇・〇%であり八十歳代までは年齢とともに増加しています。脳動脈でも同様の変化がみられ、六十歳代の一〇・五%から八十歳代の三五・五%に増加しています。この変化は内頸動脈系の動脈硬化についての成績で、椎骨動脈系については、高度動脈硬化は生命の維持に直接関係する脳幹部病変の合併に繋がるためか、この関係は明らかではありません。冠動脈については重症な三枝病変（一枝の完全閉塞と他の二枝の七五%以上狭窄）の頻度は各年齢とも二・一%から七・四%で七十歳以上ではほぼ一定しています。これらの事実高度の動脈硬化例は脳、心合併症のため生存の困難なことを示しているのでしょう。また、性差について見ると、大動脈、脳動脈の動脈硬化は七十歳までは男性に高度で、それ以上では男性と女性との差がなくなっています。

高血圧症があると、六十歳代で大動脈の高度動脈硬化は、五二・九%の症例にみとめられ、正常血圧群の八十歳代、九十歳代の価に相当する頻度になり、以後、各年齢群での増加はわずかででした。この傾向は脳動脈や冠動脈にも認められています。つまり、高血圧にさらされると、生来の生理的な動脈硬化よりも動脈硬化が進んでいて、実際の歳よりも体は老けてしまっている事になるわけです。ここに高血圧の早期発見と十分な管理の大切さがある訳です。

家庭で血圧を測定することのすすめ

血圧は測る状態や季節などによって、いろいろ変化します。まず、一般に知られているように、夏には低く、冬には高い傾向があります。寒冷にさらされると皮膚の血管が収縮し、また、自律神経の働きが活発になって血圧が上がります。血圧はまた精神の働きによっても左右されることが少なくなく、病院で測ると緊張感があるため高くなり、家庭で落ち着いて測ると低くなることは屢々、経験されるところです。特に、精神的動揺の激しい人では注意が大切で、上下の変動幅が病院血圧と家庭血圧で一〇〇ミリメートル/Hg 近くになるような事もあります。このような方に、十分な検討もしないで、いきなり降圧剤を投与したりすると、血圧が下がりすぎて問題を起こしてしまいます。実際に、病院で測った血圧と家庭血圧の差が大きい時には、医師に良くその旨を話し検討して頂くことが大切です。家庭で血圧を測る場合、略同じ時間に同じような状態で測定することも大切です。先にも述べたように血圧というものは絶えず変動しているからです。朝、床から起き出す前に一回、夜、寝る前に一回測るなんていうのはいかがでしょうか。最近の研究で、一日の血圧を二四時間連続して測定してみると（血圧の日内変動といえます）朝がたに高血圧で日中はむしろ低値を示す人と、夕方にかけて徐々に高くなってくる人のあることなども分かってきました。血圧は色々な因子によって、かなり変動するものですから、高血圧の診断にはたった一回の測定だけでは十分ではありません。慎重に診て頂くことが大切です。

高血圧の治療は生涯にわたる治療である

高血圧症は約二割の人は原因の分かった二次性高血圧で、残りの大部分は原因の分からない、所謂、本態性高血圧ですが、何れの場合でも血圧は治療によって十分にコントロール出来る時代になっています。治療によって血圧を適切にコントロールすると脳や心臓、腎臓などの重要臓器の合併症は防ぐことができます。しかし、治療を中断すると、むしろ、未治療の場合以上に合併症の生じる危険のあることが最近の研究でわかっています。治療を受けている方は定期的に診てもらい、その人に最も適切なところに血圧を管理しておくことが特に大切です。治療には、塩分制限がかなり徹底してきましたので、秋田県などでは高血圧性の脳出血は著しく減少しています。一般的には、食塩の摂取の多い我が国では降圧利尿剤が最も多く使われています。また、最近では狭心症の予防や治療も併せて行なえる降圧剤としてベータ遮断剤もつかわれています。しかし、これらの薬剤は糖代謝や脂質代謝に影響し高脂血症（高コレステロール、HDLコレステロールの低下など）をもたらすことがあります。必要に応じて血液の検査を受けながら服薬することが大切です。また降圧剤の研究開発も盛んで、薬剤の飲み易さ、維持のし易さも問題で、一日一回ないし二回の服用ですむものの開発も進んでいます。

動脈硬化の三大危険因子について

危険因子と言う概念を最初にはっきりさせたのは米国のフラミンガム・スタディです。シカゴ郊外の人口約六千人の町では、住民の八割以上の人が自発的に健康診断に参加して一九四九年から始まった仕事です。始めは結核の検診から始まっていますが、後に循環器疾患の疫学調査に変わり、現在にいたるまで三十年近く追跡調査が続いています。この研究で明らかにされた狭心症や心

筋梗塞をもたらす冠動脈硬化の危険因子は年令、血清コレステロール、収縮期血圧、喫煙、心電図異常、肥満、糖尿病などです。脳血管障害の危険因子としては、一過性脳虚血発作、高血圧、心臓異常、間欠性跛行などの動脈硬化症状、糖尿病、高脂血症、喫煙などが挙げられています。これらの異常は動脈硬化を確実に促進し、動脈硬化に伴う合併症の発症を有意に高めることが明らかにした因子です。そして、つぎに示すような共通の性質が知られています。

(一) 危険因子の種類と重みは臓器によって異なる

冠動脈疾患と脳血管障害の危険因子の種類が必ずしも同じでない事は前に示したとおりですが、人為的に変えることの出来ない年令を別にすると、高血圧、高脂血症（コレステロールや中性脂肪の高い状態）、喫煙が上位を占め、三大危険因子です。

(二) 危険因子の影響は異常の著しいほど大きい

予想されるように、血圧の高いほど冠動脈疾患、脳梗塞、末梢動脈の閉塞症、腎心性心不全の発症が高率である。

(三) 同一臓器に対する危険因子でも年令によって重みが異なる
冠動脈疾患に例をとると、三十歳代の若いときにはコレステロールが非常に強い影響力をもつが、四十歳代になると喫煙の影響が大きいく。さらに年をとると高血圧が一番きいてくるなど、年令によって危険因子の重みは変わって来るといふことです。

(四) 複数の危険因子の影響は相乗的である

例えば、高血圧のみの四十歳の男性が向こう八年間に狭心症などの虚血性心疾患を起こす確率は、この研究によれば人口千人当たり四六人であるが、高血圧に加えて高コレステロール血症、タバコを一日二十本以上吸い、心電図にも異常があるという状態になると、同じ期間に虚血性心疾患を起こす頻度は人口千人当たり七〇八人、即ち一五倍にもはねあがってまいります。つまり、影

響が相加的というよりはむしろ相乗的になる訳です。

高血圧についてはすでに述べたので、高脂肪血症についても少し追加しておきます。高脂肪血症とは血液中に、コレステロール、燐脂質、中性脂肪、遊離脂肪酸の四つの脂質のうち一つあるいはそれ以上の脂質が増えている状態をいいます。一般に多いのは低比重のリポ蛋白（LDL）の非常に高くなった所謂高コレステロール血症と、血液中に中性脂肪とコレステロールの増えた、所謂、タイプⅡbです。このほかに太ったアルコール好きの人に多いタイプⅣがあり、動脈硬化の頻度もたかく、脂肪肝、脾臓炎、痛風などの合併がみられます。このような脂肪代謝の異常は朝の空腹時の血液を調べると簡単に分かるので、当医師会で会員やその家族に対して定期的にこなっている血液生化学検査を積極的に利用して頂けたら幸いです。

タバコの害について少し触れておきます。ここに示したアメリカの成績ばかりでなく、日本の疫学調査（五島教授ほか）でも喫煙者の脳梗塞（脳の動脈閉塞によって生ずる脳軟化）や心筋梗塞の発症頻度は非喫煙者の約四倍であることが分かっています。この研究は四十歳以上の人を対象に行なわれており、このように、喫煙と特に中年男性の冠動脈疾患による死亡率の増大とが非常に密接な関係にあることは、我々にとつて無視できないところかと思われまゝ。タバコの害はニコチンそのものによる血管の収縮作用や血液の中の血小板の凝集促進、あるいは血圧の上昇作用が増悪因子とされています。また、最近ではニコチンに直接的な血管毒の働きのあることも分かっています。そのほかに喫煙によって生じる赤血球の一酸化炭素ヘモグロビンが悪さをなしているとの成績もあります。また、一日四十本以上吸う人では動脈硬化を抑制する働きを持っている、所謂善玉コレステロールの高比重リポ蛋白コレステロール（HDL）が著しく低下することも分

かっています。いずれにしろ、過度の喫煙は動脈硬化や癌の発生と深い関係にある訳ですから、健康のためには出来るだけタバコは吸わない方が良いのです。

まとめにかえて：動脈硬化は治るものだろうか

従来は、動脈硬化は一旦起こつて了うと治らないものとされてきました。しかし、最近の研究によると、そう悲観的でもないようで、アメリカのブランケンホーン教授の成績では食事療法を徹底的に改善し、運動療法を行なえば高度の動脈硬化でも一五〇例中三分の一に改善（動脈硬化の退縮現象）がみられています。

比較的若い人では積極的に食事療法をすすめることによって動脈硬化がかなり改善されることが証明されたわけです。しかし、それにも限度があり、病的な動脈硬化に加齢による生理的動脈硬化が加わってくるような年齢に達してしまった人の場合や、相当に動脈硬化の進行してしまった場合には改善を期待することは無理と思われまゝ。やはり、四十歳から五十歳代のうちに動脈硬化の危険因子を取り除いて、動脈硬化の進展を抑制するように心がけることが大切です。

成人病検診では、少なくとも血圧の測定、胸部のレントゲン写真、心電図、血液生化学のスクリーニング検査は定期的に受け、データの推移をよく管理していく事が大切であると思われまゝ。

（六十年八月 記）

座談会

「四奇人、流れ放談」

米 沢 堡 山 本 健三郎 齋 藤 義 寛
阿 部 昭 治 編集委員(加藤・大久保・児玉・沢山・青木)

昭和60年 9 月12日

室蘭市幕西町 「丸山」

加藤 お晩でございます。このまま話を流してもいいんですが、ちよつとご挨拶させて貰いましょうか。実はきょうの顔振れの企画は二年前からあったんです。齒に衣きせずズバリ話して頂ける先生方という事だったんですが、どういう訳か奇人、変人の座談会という風評が流れましてね。それで「奇」「奇人」なる言葉を些か調べてみましたら、才能なき者は奇人たり得ず、と云う結論が生まれて。それじゃ先生方はその通りだと(米沢―おだててオチヨクツてんだ……笑)まあ、テーマは特に考えていません、自由に話して頂きたいんですが……今は大相撲の最中ですから、ひいき力士の話からでもいきますか。米沢先生は？

米沢 オレはぜんぜん興味はない。

齋藤 オレもない。

山本 ワタシはあるよ。トトカルチヨみた

いなこともやつてるからね。

米沢 相撲も野球も一切興味ない。猫も杓

子も興味もつものには興味がないな。

齋藤 オレもそう。野球なんて見たこともないよ。

◇◇ じゃ何に興味？

齋藤 なんぼでもあるよ。精神科関係の本集めたらキリがないも。うちに一万冊くらいあるよ。だから退屈しないもの。室蘭中学出身で精神科に行ったのはオレの前に

人カケカワっていう人いたけど死んだって聞いたから生きている中ではオレだけだもの。

山本 ボクはね、精神科に興味あったんだ精神科になる奴は変わったのが多いよね。それが一つ。学生時代から野球やってたけどね、野球にも学があるのー野球学というのが、ボクは飛田穂州のいわゆる精神方式で鍛えられたんだ。テレビでピッチャーとキャッチャーが大写しされるね、かけひきが判るんだ。勝ち負けの予感がするんだ。ネ、相撲もそうだしゴルフだってそうだし。精神的なものの非常に影響するでしょう。産婦人科になったけど、そういう事には非常に興味持っていたからね、オレは随分心を診て来たぞ……って気がするんだ。まあ、ボクのは学問的にどうのこうのではないけどね……。

米沢 黙ってしゃべらせといたら何時までもやるよ。(笑)会合でもしゃべるんだ。俺の意見は絶対正しい、確信持ってるんだって話しぶりだ。

山本 自分では確信持ってもネ、私の強くないのがワタシの特徴なんだな。(笑)人の意見もよく聞く、そしてサツと引く……これがオレの特徴でネ。(笑)

理路整然としてるって言われるけど頭には何も考えてないんだ。だけど書けって言



われたら一筆も書けない。

◇◇米沢先生、医者でなかったら何になつてました？

米沢 職人だな、手仕事の。

斎藤 オレは小説でも書いてたんでないかな。子供の時から文学好きだった。小学校の時、作文が一番上手だったもの。

米沢 小学校の作文上手だって言つたつてナ。(笑)

斎藤 オレの友達で小説書いてるのかなり多いんだよ。でも食つてるのは渡辺淳一くらいのもんですよ。芥川賞候補に三回のぼつたテラクボっていうのいるの、この間本を持って来たけど一万部しか売れないんだつて。印税で食えないから仕方なく医者やつてんだつて。小説じゃ食えないよ。医者なら90%食えるからね。

山本 最近この先生の書いたもの読んだんだ。ああ才能あるなと思つた。ユーモアがあるんだよ。オレは全然だめだ。聞かせる方なら人後に落ちないだろうな。思いつきでしゃべっている様だけ準備はすごい。だから選挙の票集めだったらワシはやるよ

石 鯨 から レ プ ラ

◇◇ 米沢先生、いつ頃から国外に？

米沢 うん、日本国内から始まつたな。沖

縄がまだ米国領の時から。それから朝鮮通いだ。

斎藤 オレのおやじ行つたの？一緒に。

米沢 行けないのさ、理事で。

斎藤 金も無かつたんだな。(笑)

山本 米沢先生をよく知っている人といつたら昔は斎藤先生のお父さん、長田先生がいるけど、現在ならワシが一番だな。

斎藤 婦人科つてS U K E B E 人になるんじゃないの？(笑)

山本 そんな事ない。一日でもいいから代つてくれ、なんて言う奴いるけど真剣勝負の世界でそんな余裕なんかないよ。

米沢 S U K E B E だから婦人科に行つたなんて実に浅墓な考えだ。(笑)

山本 ワタシ靴持ちして韓国からずーっと廻つたけど、随分細かく氣を使う先生なの。

米沢 コンダクターつて大変なんだ。皆におだてられてやつたけど朝鮮らしいもの食べて、見てと思つても駄目さ。オレの楽しみ全然ないんだ。(笑)

山本 キーセンにやるつてね、資生堂の高級化粧石鯨を人数分持つて行つたもんね。

米沢 今でもそうですよ。チベットに行く時お土産持つていくよ。

斎藤 やっぱ資生堂。

米沢 石鯨なんて駄目さ。一生に三度しか

顔を洗わないもの。生れた時と結婚式と死んだ時に顔を洗うだけなんだ。垢を落とすことは福を落とすことだって言うんだ。水がない、川がないから先ず飲む為の水だな砂漠では洗面器一杯の水で歯からなにから全部やるでしょう。日本人は風呂に入ってお湯がぬるいから少ないからブースカ言つてナ、一週間に一遍オレは銭湯に行くけど意味もないのにシャワー浴びてナ、あれ見ると俺しゃくにさわるんだ。(笑)風呂から風呂まで顔も洗わないんだ。髭剃れば同じことだ。歯だけ磨けばいい。(笑)

山本 日本みたいに湯水の如くなんて事は考えられないんだな。

米沢 ない、ない、日本だけだ。

山本 しかしボクは、又話違うけど親交会の台湾旅行でオドリエビつてのを食つたよ検疫所に勤めてからあーつと思つたよ。俺達ずい分恐ろしい事したなつてね。あんた台湾からコレラ菌どん入つて来るんだ米沢 今、コレラだつて赤痢だつてオツカナクなくなったよ。法定伝染病だなんて騒ぐことないんだ。みんな治るもな。

斎藤 脳梅もなくなった。オレ達医局に入つた頃は脊髄液とる専門の係が居たんだ。四十過ぎておかしくなつたら脳梅を疑えて教えられたんだもの。今はゼロだよ。

米沢 ペニシリんじゃないん打つたもな

斎藤 でも原因わからないんだよ。なんでなくなったか論文ないんだもの。レプラはオレ見たことない。

米沢 中国に初年兵が来た時レプラ患者が混っているんだ。内地から来た軍医は判らないんだ。二、三人見つけたよ。ファチエス、レオナーリス、獅子面さ。レプラとも「らい」とも書けない。A U S S A T Zと書くんだ。オレ帰国して大館の病院に就職する時ナ、女房がお産だから単身赴任したんだ。退院した女房を迎えに盛岡まで行つて花巻から花輪線に乗った。前の座席にナレプラ患者が坐りやがるのさ。(笑)生れたばかりの赤ん坊だろ、心配して隠してさ車掌来たから俺の前にいるのレプラだからのけてくれた。あんた何だ、俺は大館病院の医者だつて言つた。次の駅でおりたよ医者なら、ああこりや駄目だなつて降りたんだナ。

斎藤 ふーん。本人は知ってるの？

米沢 あ々知ってるの。

山本 今なら人権侵害かもしれないね。

◇◇ 皮膚科は汚ないなんて触るの皆いやがるけど内科の方がよっぽどコワイと思うよ。(笑)

国籍不明からお茶うけ

(この辺で料理のシイラ談議から魚談議、カマボコの話など賑やか)

山本 ボクはね、米沢先生の背広きてネクタイしめた姿、一ぺんか二へん位しか見たことないよ。

米沢 あんな首締め文化には非常な抵抗を感ずるんだ。

◇◇ でも先生が一番首締めてますよ。重い玉ぶら下げて、襟はハイカラーだし頭まで締めつけているもの。(笑)

斎藤 持ってるの？背広。

山本 持ってるよ。オレ見たことあるも。

米沢 先生、その帽子ちよつとかぶらせて：うん、これいいね……。

◇◇ 山本先生なら帽子は絶対必需品だね米沢 これは外出用なんだ。外来では白いレースのイスラム教のあれかぶつて割烹着を着てんだ。

山本 その白いの欲しいんだけど日本じゃ買えないでしょ。

米沢 うん、手に入らない。

◇◇ 先生が記憶喪失になつたら何国人だと思われるでしょうね？

米沢 海外に行くとな、オレ国籍不明なんだ。日本の人も土地の人も誰もわかんないんだ、何国人だか。成田空港に皆集まるだろう。あ、日本人でないのがいるつて言うんだ。そこら辺うろちよろしてるから日本

人でないと思つたつて言うんだ。(笑)

◇◇ 巻たばこ喫つてていいんですか？

米沢 なんぞ？

◇◇ あの変な道具、キセル…。

米沢 ああチャンカン。あの長いのでナ、おい、おつかあ火をつけろつてナ。(笑)

◇◇ ペットは？

米沢 今いない。

斎藤 オレのところはマルチーズ。

山本 犬はいない。猫だけだ。猫にはオレ参つてゐる、本当に参つてゐる。死んだ女房の形身なんだ。娘達とは姉妹みたいもんだろお手伝さんがオレの御飯つくつてオレが猫の御飯つくつてゐるヨ。(笑)

◇◇ 猫はいるけど女房はいない……。

山本 貰え貰えつて奴はいるけどね。最近も言われた。ハイクラスの有閑マダムが集まる喫茶店とか、場末でも人のよく集まる髪結いさんとか、そんな処で懂れの的ならいいけども酒の肴ならぬお茶うけのお菓子位にはなつてゐるんだよつて。あの先生寂しそうにしてゐるとか、あそこの奥さんと歩いてゐたとか、そんな話してゐるそつだよ。オレもがっかりしてな。(笑)でも自由だ

米沢 オレは女房いたつて自由だよ。制限感じないナ。オレ天皇陛下だよ。

◇◇ 天皇陛下も皇后さんと旅行されるけど先生は奥さんと歩いてゐるの見た事ない

米沢 いや、たまにあるんだ。女房が四、

五間後から歩いてくる、向こうから男が二人来て「先生今日は」「いやあ今日は」…女房とすれ違ふときーおい、あれでも医者なんだー。(爆笑)

斎藤 それなら二人で歩けないワ。

女性心理から石

◇◇ 斎藤先生、今日は少しおとなしいね

斎藤 オレ何時もおとなしいんだ。

山本 そうだ肝腎の事しか言わんもな。阿部先生もそうだ。夢中になつて喋り出そうとすると言葉が思つた通り出ない方だよ。ときたまズバツとね、グサツというのが受けるから我々の仲間に入れられるのさ。(ほーら現れた！待つてました！阿部先生登場。拍手)

米沢 へそ曲げて来ないのかと思つたんだ何の話かわかんないしさ。

阿部 おれもさ。

◇◇ 阿部先生、言いたいこと喋つて貰うだけの席なの。

阿部 いや、この三人は医師会の三奇人だつていうのはわかつてゐるんだ。

山本 そんなことない。オレは一番最後だ阿部 冗談でない。先きだよ。

(ここで一しきりのやりとり。米沢先生は別格官弊大社ということになる)

米沢 一斉休診で騒いだ頃オレ文句つけた事あるんだ。その後オレのおつかあ街歩いていて他の会員の奥さんとすれ違いそうになると、おつかあ店に入つてしまふんだそう。……とうさん医師会の総会には絶対出ないで下さいつて言われた。

阿部 女の心理つてそんなもんさ。オレの近所でも番付に載るの三人位いるんだ。そのカアちゃんオレに遭うと皆逃げて行くよなにもGOKANしたわけでも愛を告げたわけでもないのに逃げて行くよ。

米沢 いやオレのはおつかあ同志だ。

阿部 だからさ、知らん振りするのが女の心理さ。婦人科やつて女性の心理わかんないのかい。(笑)女は不思議なもんだよほんとにオレ不思議だと思ふね。二十前後の若奥さんならわかるよ、五十はとつくに過ぎてゐるんだよ。

米沢 だからオレ総会に出ないんだ。

斎藤 天皇陛下も奥さんの言う事聞くの？

米沢 女房にイヤな思ひさせたくないもナ山本 米沢先生はね、何を言つても先生が言つたんだからで通るんだよ。

阿部 山健さんだつて通るよ、ネエ。安心せい。(笑)

◇◇ 阿部先生、石を集めてましたね。

斎藤 石集めると死ぬって云うもネ。

阿部 最初はね、池田耳鼻科と二人で行ってネ、それ見ていて先生のとうさんも集めに行ったんだ。

斎藤 石集めたら死んじやったよ。

阿部 オレもオレのおやじも生きてるんだからアンタの理論は成り立たないよ。

米沢 石はね、硯につきるの。

阿部 それとは別の石の話だけどさ。硯の一番いいのは古端溪でしょ。今は新端溪ばかりだけど端溪は当節、木に椅って魚を求むる如しだからね。

日高石には飽きがきているんだ。石の何にとりつかれたかと言われれば、自然の造形といえましょうかな、自然の巧みというかな…肌触りもあるしね。

山本 オレは金もかけてね、いい石だなあって庭石眺めていたけど半年も経ったら卒業してしまったな。

阿部 悪いけど反論するか。あんた、いい石集めないからさ。こないだ金かけて庭を造ったっていうけどさ。ああ、あすこから持って来た石だなんてオレすぐ判るんだ。

山本 どんないい石だって毎日毎日、朝から晩まで眺めていたら……。

阿部 いやあ、それがいいんだヨ。とうさん。(笑)

斎藤 墓石だからな。(笑)

阿部 斎藤さんは頭いいよ。良過ぎる。馬鹿と何とか紙一重っていうけど奇人と何とも紙一重かコンドーム一重のどこにあるんだ。オレは真似できないよ。医師会では彼の奇人の方を先に出してゐるでしょ、奇人は確かだ。しかしワイズメン…いや、もっと上かな。

米沢 賢とは云えんな。賢人はオレの方だ

山本 あんた此の人を賞めたからオレあんたを賞めるヨ。奇人の一人だよ、だが視野が広い。

三次元と八次元

◇◇ 斎藤先生は医者でなければ小説書いていたって言うけど阿部先生は？

阿部 う——ん。

米沢 石屋だ。(笑)

阿部 ボクら昔人間は親の道を歩くという事だったんだ。郵便配達の子は郵便配達、肥担ぎの子は肥担ぎになるって、ちゃんとやってたよ。だからオレも素直にね……。それに二高より一高がいいって知ってたら一高受けたかもしれない。オレ二高が一番いいと思ってたもね。本当に単純なんだ。

山本 阿部先生みてるよね、面白い人だけど真面目で固い人だ。

阿部 その通りだよ。そして情にもろい。

斎藤先生、あんたのおやじさんのコレクシヨン上野の博物館なら駄目だよ。日本の民芸家でないとダメだ。あそこにあるような物あんたのおやじ収集しなかったよ。

斎藤 金とか銀は一番嫌いだって言ってたよ。シルクロード展を観に行くと金と銀と青銅だよ、殆ど。

阿部 そういう事言うから駄目なんだ。頭良過ぎるんだ。シルクロードに行つて金と銀と銅しかないってオレ初めて聞いた。

斎藤 オレやつてるの精神医学だよ。金も銀も何もない。

阿部 専門馬鹿になりすぎてる。この男をオレ尊敬するんだ。オレ達単純方程式といてる時に六次方程式を解いてるんだ。解けないけどネ。挑戦してるから尊敬してる。

山本 頭の良い悪いは背が高い低いとか、肥つてる痩せてるとかの違いしかないです

阿部 いや、そんなことないって。頭いい方がいいさ。良過ぎるから困るの。

斎藤 アハハハハ

阿部 尊敬してるけど一諸に酒飲む気にはなれないんだ。オレ三次元の計算してるのにカレ八次元の計算してるんだもの。

斎藤 アハハハハ

山本 頭がいいって事と利口とは違うよ。しかし此の人は頭もいい、利口でもある。社会適応性、大勢順応性は四奇人の中では

一番だ。

齋藤 そんなものない。オレへど出るよ。

米沢 オレね、人間の性格形成は非常に環境に支配されると思うな。金沢生まれ松江仙台育ち、北海道でははっきり分れるな。

しかし今はせわしなくなつたから皆ゴチャ混ぜになつてしまつたなあ。

阿部 先生は地域で分類するけどネ。オレ職業で考える。学校の先生、裁判所、医者も巡査も生意気だとネ。正直言つてオレ達も生意気なんだ。

山本 横槍入れるようだけど又違うんだな身上相談もやつたけど同じ性格のやつほどうまくいかない。夫婦、人間でももの考え方、人生観の違いなんだ。これはネ家庭環境：親にどう育てられたかなんだ。

米沢 オレは反対。十年十五年になると似た者夫婦つて言葉あるだろう。オヤジ次第なんだ。今の男があんまりグラシないんだ阿部 うん。昔は幼稚園でも中小学校でも総代は男よ。今は北大でも一番から何から：なんでも女を選ぶんだよ。男の方がいいに決まつてんだ。(笑)

米沢 オレなんか三分の一しか大学に通つていなかった。

阿部 三分の一行けばいい方だ。(笑)

山本 でもね、男と女つてそんなに違わないよ。生物的には別だけだ。

阿部 文化文政、元祿でも武士が皆お化粧した。それと同じさ。軟弱に流れて男女の区別なくなつたんだ。

齋藤 今の離婚率は最低だよ。明治時代はアメリカ並みだつたんだよ。

山本 高いと云つても男の側からでない？

齋藤 いや、そんな事ない。秋田県の田舎なんか女の方が強かつたんだよ。一番低いのは昭和三十年から四十年、その前は昭和十三年あたりなんだよ。

(ここで丸山の若女将も入つて諸説紛々)

笑い疲れて

阿部 こうやつて喋つてるけどさ、意図したものは出たの？

◇◇ 出てる出てる。

阿部 齋藤先生、何だかおとなしいな。オレ来たら駄目か。オレ一目も五目もおいてんだけどなあ。アルコルフオビーだな。

山本 阿部先生の高校時代は目に浮かぶ様だナ。

阿部 仙台から室蘭に帰る汽車の中でね、あの時代は混雑なんでもんじやないんだ。落としたらそれっきりさ。まあ帽子なくしても教練の時は友達から借りたからいいんだけど、教練の査閲の時さ。オレに借す奴いないんだ。(笑)それでサボつたら教練

丙さ。教練丙は大学もどこも入れないんだおやじがアキアジ背負つてさ。配属将校に謝つてさ……まあヤンチャだつたな。

米沢 オレは小さい時は普通だと思ふんだけどな。目立つてたんだナ。

阿部 オレ思うけど先生はチョコチョコした秀才だったのさ。

米沢 秀才ではない。オレ二高に入つたんで皆驚いたよ。

阿部 そうでしょ、そうだと思う。(笑)

山本 ワシの生まれは上海だから日本人ばなれしてるんだナ。兄弟も皆世界各国で生れてるからね。米沢先生は何も変わつてないんだよ。奥さんも可愛がるし家族も大事にするしね。ただね、奇をてらつてストレス解消してるだけさ。

米沢 奇はてらつていない。足の向くまま気の向くまま、それ以外の何ものでもない山本 言葉が悪かつたかな。

齋藤 米沢先生は室中何回生？あ、八回。オレ二十四回だもの、シヨンベンだな。

◇◇ 座談会はこれで、後は知りませんよ沢山 今日四奇人(四偉人にしろよ)に集まつて頂いて面白い話を期待していた訳ですが期待通りでいつまでも飽きないんですが時間になりまして大変残念です。(来年もやろうや)今日はほんとうに有難うございました。(拍手)

わが青春

死神と赤紙

遠藤孝二郎

ある避病院の一室、一人の痩せ衰えた若い男がベッドに横たわっている。病人の傍らには母親と思われる中年の女が必配そうにずっと顔を見ている。

患者が時々「イテテ……」と悲鳴とも何とも形容の出来ないうなり声を上げたかと思うと、又昏々と深い眠りにおち入って行く。そこへ体格のいい中年の看護婦と、もう一人の小柄でやや若い看護婦が入って来て、これからリンゲル注射をします、と言って、瘦せた男の右の大腿をまくり上げヨーチンで消毒して太く長い注射針をズブリと刺した。男は一瞬びくりとしたが、又何事もなかったかの様に昏々と眠っている。

外はジトジトと此の地方特有の海霧の季節なので太陽は見えず、今にも泣き出しそうな空模様で、遠くの方でボーボーと霧笛の音がする。

時は昭和十九年四月。昭和十六年暮れに始まった太平洋戦争はいよいよ苛烈になり我が国の旗色はよくなかった。アツツ島の玉砕。マキン、タラワ両島の玉砕。ガダルカナル島よりの転進。果してこれからどうなるのか、皇国の必勝を信しながらも人々の心の中は梅雨空の様に陰うつである。

これが誰あろう、若き日の私の或る日の一齣である。昭和十八年の末、市立室蘭病院に赴任して来た医師になりたての若い医師は、午前中は本院内科で研修し午後は中浜病院（伝染病の隔離病舎）に出張して伝染病患者を治療するのが日課であった。当時は今と違って恐ろしい法定伝染病がうようよしていた。

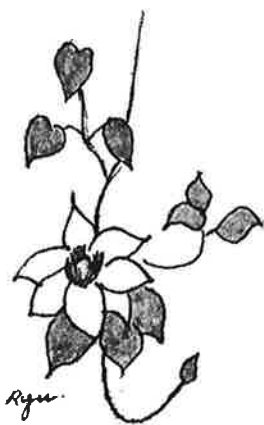
私が診たものだけでも、腸チフス、パラチフス、発疹チフス、流脳、デフテリー、猩紅熱、天然痘 などである。さすがに、コレラ、ペストだけは見られなかった。その中でも発疹チフスが一番恐ろしかった。伝染力が強い上にかかったら最後、五十%の人が死んで行った。特に老人とか抵抗力のない人はどんどん死亡して行った。

前述の通り私は発疹チフスにかかったの

だが、幸にも体力がありヘルツも強かった故か、どうにか助かって元気になることが出来たのである。医学が現在の様に進歩していない四十一年前に一命を取り止めることが出来たのは、当時の内科スタッフ即ちT先生はじめ各先生方とブレさん達の献身的な診療看護の賜と、深く深く感謝の意を表する次第であります。

追記

一ヶ月程の入院のあと、病後静養のために内地の実家に帰ったが、そこに彼を待っていたものは何か？ 召集令状（赤紙）であった。



—大正つ子物語—

遠い季節

加藤 治良

露地の奥

「すみません、先生。こちらから」
立ちどまつて、近道なのか人眼を避けた
のか、もうひとつ狭い小路に入る。
羽目板の黒いささくれを気にしながら後
につづいた。
「足もとにお気をつけなすつて」

小便臭い薄暗さの中を小柄な背中が右に折れて、裏口一枚戸がオヤと思わせる程軽い音を立てた。

敗戦二年目の晩春。街は中途半端に干乾びたままだが、この界限の空気は妙に湿っぽく独特の生々しさが淀んでいる。

迷路と称する程ではないが、この一郭を（通り抜けただけでカサブタの出来る小路だよ）と聞かされていたものだ。大人達のような戯れ言が衛生博覧会の戦慄すべき色彩と重つて、長襦袢の前を開いて立っていた等身大人形の妖しい微笑みも消えずにまだ残っている。

階段のとつつき、赤い鏡台と衣桁、三段の整理箱が壁ぎわに並んでいる小さな部屋——布団のなかの彼女は、もういけなかった。

肌は冷えきつて、水から揚げられたように髪まで濡れていた。

五分後、かすかにしゃくりあげ、そのままだつた。

ばかなやつだ——小柄な主人のかすれ声は腹を立てている様にもきこえた。

廊下に坐つて敷居越しに、無表情な顔のをぞかせていた二十歳ぐらいの女の子が、立ち上つてちよつとよろけ、そのまま階下

に降りていった。

「二十四になるんです。身寄りの薄い妓女もんで、こんな因果な商売していても我が子同然に面倒見てやつてましてね……あやにく女房が旭川に行つてるとこなもんで」
サナエ、と呼ばれて先刻の女の子が茶をはこんでくる。酒の香がした。まあ、いいだろう——長火鉢を間に、主人が両膝をそろえ直した。

「心臓かなにかの診断書つてことにはならないでしょう。貧血とやら、心臓が弱いとやらで病院に通つていたこともあるんです。市立かどうか、そいつは判然しません……先生、診られたことは？」

己がひと口すすつたのを見て心持ちぞんざいな口振りになったようだ。

「こんな店やつてますとねエ——薬を飲んだの、自殺だのつて事になると、尾ひれをつけて喋り廻る連中がいましてネ。

先生、ここところはひとつ、助けてやつちやくれませんか」

それは無理だ。気持はわかるが出来ない相談だ。

もう一つおかわりを……その手をおさえて己は立ち上つた。

「さいですか、やはり不可ませんか。わかりました、先生。いまのは、どうか忘れて

やつておくんなさい」

神妙に小腰をかがめた頭の上に立派な神棚がしつらえてあった。

広い方の路地に出る。夕靄がうまいものの匂を乗せて流れていた。

二十日ほど過ぎて——この店のおでんは美味い。あれこれに、たっぷり汁をかける平岡先生も、豆腐と大根さえあれば、という己も共に「一番味」だと思っている。

女将の津軽なまりもいい。さりげなくサーブしてくれる一椀の特製濁酒は更にうれしい。

平岡先輩は自称、耶蘇くずれ。まづは己の方からの仕掛け話だが、美祿とはいえ庶民酒、しよせん俗物的美学的宗教論の域を出ない。その夜はギリシャの神々を楽しんでいた。

.....

風呂敷包みをかかえた若い女が入って来て

「かあさん、これ預ってちょうだい」

ああいいよ。いつ発つの？

「あしたの、ひる」

と答えて、おれ達の方を視る。アラ、顎を引いて立ったまま眼で会釈した。

.....

「ねえさんの形身なの。先生にあげるワ、わたしなんか判らないから」

包みから取り出した文庫本を己の皿の横にそつと置いて店を出て行った。

《青銅の基督、長与善郎》

「そうかい、あの時、先生だったのかい」

女将は声を落して、おとなしいひとだったと言った。噂では、とうさんと出来ていて、かあさんが時々居なくなつて、いろいろあつて、でも彼女には船乗りのいい人が居た筈だと言った。

店は人替りするらしく主人夫婦は内地に引揚げるそうだし、先刻の女の子は函館に行くのだと言う。

あの小路、抜けてみませんか？

「母なるマリヤと、マグダラのマリヤと、主はいづれをより愛したまいしや……これが解けなくては愛は語れない。いいでしょう」

喜平次

喜平次は「八卦おき」だった。

羽織袴はよれよれだが、赫顔白髯、大きな眼をむいて体格は師団長のように立派だった。

「ソーツウを一杯」

野太い声で店に入つて来ると、家の者も居合せた客も皆厭がった。焼酎盛切り一杯だけだったが、上りがまちに腰をおろして頭陀袋から筵竹をとり出すこともある。乗合いバスを待つ客の中に物好きな人もいたからだ。そんな時は二杯目を所望した。

おそろしげな風体で酒と垢の臭いをまき散らす以外、実害はなかった様だ。往来で見かける喜平次は、やや前かがみふらつき気味ながら大股に歩をはこぶ。特大の「でんぶん靴」をはいていた。

口の中でいつも何やら呟いていたから、おれ達子供は喜平次を呪文使いだとも思っていた。

追いかけて、気の強いやつが

——キヘイジ、キヘイジ、ハツケオキ

ショウチウノミのハツケオキ

ベコからうまれたハツケオキ——そんな時、喜平次は右手の人差指と中指の間から親指の頭をのぞかせた拳を突き出して、ゆつくりと

「この、どぶの中のほいとの子らめが。お前は、おつかあのコレから生れたんだ」ふり向いてギロリと睨みつけるのだ。

どこに住んでいて、どこからやつて来てどの程度の八卦見だったのか、全く知らなかった。

その喜平次に八年振に出遭った。

海霧の季節、早朝の砂浜に近い、さほど大きくもない溝の中、俯伏せに、しとどに濡れて固くなっていた。

羊羹色の羽織袴も肩にかけた頭陀袋も見なれたままのものだった。

白いものが横髪にわづか残っているだけすっかり禿げ上って、こめかみに、茎の折れたウマノミツバがお呪いのように貼っている。

船入 澗

炎天下の祝津街道をサイドカーが走る。

簡易舗装は傷みつばなしだ。オンボロバスで毎日通っている己には穴凹の数まで覚えている。アスファルトの熔けた熱気を吸いこみながらカブセルのなかで飛びはねているのは、終戦直前の大阪で、鉄骨焦土の中を歩いたのと大差はなかった。

鹵簿先導の憲兵や、佐官旗をひらひらさせて疾走する、あの颯爽ぶりを期待して美事裏切られた。

船入澗は、赤防波堤の根っこの〈坊主山〉をはさんで埋立側に入りこんでいる。

石崖の上に十人ばかりの大人、子供が集っていて、サイドカーの音でいつせいに振

り向いた。

「ひどいホトケさんだなあ！」

己を乗せて来たお巡りは、魚くさい荒筵をめくって半歩あとずさりした。

顔の左半部は完全なシヤレコウベになっている。上衣とずぼんは厚ぼったく季節のものではない。露出している身体の軟らかい部分も殆んど残っていないかった。

年齢は？ わかるものか。

死後日数は？ 見当もつかない。

網にかけたのは山脇のおっさんだ。

「鈴木んとこの舟にかかった時だって相当ひどくこわれていたんだ。それが、たったの一週間でヨオ。」

この人だって、そんなに経っていないさたぶんホロモイあたりから流れて来たんだべよ。岩場でやられるし、魚だつて結構いじりまわすもんだ」

「いや、オヤジよ。だいぶ海の底に沈んでいたんでないかな。着ているものが、どう見たって春先きのものだもナ」

潜水夫の松造が、いいことを言う。

「医者もゆるくないもんだナ……先生」

おや、伊藤のトシか。

此処はこれで結構です。お巡りは筵をかき直した。

造船所の水際に降り、二人並んで手を洗

う。底まで明るく透けて、ギスカジカの仔魚が群れている。

上衣の処どころにへばりついていた白い布、あれは包帯の切れ端しぢやないのかな……そう思った時、

光の輪が伸び縮みしている水面にボカリと一つの顔が浮んだ。

衛生管理者の秋川氏とその家を訪ねたのは、前の年の秋のこと。

包帯で顔中をおおい、身体のわづかな部分さえも空気に触れるのを厭うかの様に包みこんで、小窓ひとつ、物置の様な部屋にひっそりと坐っていた。

顔にデキモノが拡つて一月、二月と欠勤を続けるうち、見舞いに行った同僚の口から癩病だ、レブラなんだの噂が流れた。

本人もそう思っているし、病院にも行っていない。一人娘は親類にあづけて女房と二人きりだが、近所の人達も気づき始めて警察に知らせるとか、どうか——そんな話だった。

しぶしぶに包帯を半分程解いて見せてくれた。レブラ患者をともに診た経験は己に無かったが、〈狼瘡〉かもしれない。

現に私がこうして触っているじゃないの然るべき専門医の診察を受けなさい、と秋川氏と二人で説得したのだが、否とも諾と

も応えず黙したままだった。
それきりになって——たしか四十歳には
なっていないかった筈だ。

彼かもしれない、と思ったわけではない
が、似た悩みを抱いていた人だとすれば、
汗ばむ季節に厚物を着ていてもおかしくは
ないのだ。

いづれ身許は判るだろうが、秋川氏に尋
ねてみよう。その後の彼がどうなったのか
を。

夏の休みはまだ終っていない。石崖の上
の人だかりとは無縁な顔付きで、もやい舟
から身を乗り出し糸を垂れている子供達が見える。小魚の動きを追って、目で釣っているのだ。石蟹が一匹、白い腹を上にして沈んでいた。

隧道の中

助役さんが駅で待っていた。

自転車置いて、線路沿いの小道をトン
ネルに向う。己の歩度は速い方だ。

「先生、次の貨物まで二時間近くはありま
すから」

急いでいると思ったらしい。

山斜面に沿ってゆるいカーヴを曲ると隧

道の入口が見えた。カンテラの光が二つ、
小さく動いている。

列車では三十秒足らずのトンネルだから
闇の部分はいくらもない。

ちょうど中間あたり、海側の枕木の上に
古着をまるめて投げすてられたように転っ
ていた。小供かな？と一瞬思ったほど、ち
いさく頼りない背丈だった。

右腕と右脚がついていない。
カンテラの光の中で、不機嫌そうに薄目
を開けている女のひとだった。

分院に移ってから三度目の鉄道事故だ。

昨年の夏の二回は、どちらも貯木場の開口
部を横切る鉄橋だった。

真昼時の母子二人は完全に散らばってい
て、覚悟の列車待ちという事だった。

もう一人は左膝上から見事に切断された
屈強の作業員で、既に外科さんが帰った後
担ぎこまれて来た。

大分市の空襲で患者収容に馳せつけたあ
の時、軍医長まで吹き飛ばされた西海航空
隊戦闘治療所の修羅場を想い出しながら孤
軍奮闘したが、本院連絡がつくまでの三十
分間を持ちこたえる血液は残っていなかっ
た。

「助役さん、どうも気になってるんだが」
年配の作業服がかすれ声で言った。

「似てるんだなあ、沢木の嫁に……」

沢木の？嫁？

「ええ、トンネル抜けると三軒かたまつて
漁師の家がありますね。その沢木。助役
さん知りませんか。」

婆さんと息子夫婦の三人暮しでネ。何度
か磯舟借りて釣りに行ったんで、わしは識
っているんだが……間違いないな。いやい
やあ、参ったナ、どうして、また……」

叱りつけるようにカンテラを近づけて腰
を落す。助役もののぞきこんだ。

駐在が来ましたよ——

反対側の枕木を踏んで、もう一人が近寄
って来た、その時、コトン 音がして首が
すーっと起き上った。

「ゲッ」おやじさんがのけぞって、尻餅を
ついた。

脇腹にイヤというほど打ち当たったのは助
役の肘。己はおれで声にならぬ声をあげた
ようだ。

沢木といえ、あの婆さんだ。

胃がいれんで七転八倒、苦しんでいると
いうので磯づたいの道を自転車でかけつけ
た。青葉の頃だ。

玄関の前でテングサを乾していた婆さん

が——先生、わりいなあ。おかげさんで直ぐおさまってしまったもんだから、この通りなのしや。本当にわりいなあ——と、しきりに恐縮していた。

三日程経って息子がタカノハを二枚持つて来た。嫁の顔を己は知らない。

助役と己は隧道の外に出て、深い呼吸を一つした。内浦の海が白く眩しい。軽いめまいをおぼえた。

「人違いならいいですね」

二人は同じ言葉を同時に言って、晩秋の日差しの中を歩きはじめた。

イタドリ群落は、もう枯れ切って黄と茶色の葉っぱが、カラカラと乾いた音を立てていた。

ほんとうに乾いた音だった。

(おわり)

〈遺稿〉

かなり古いお話(その四)

小雲水

—室蘭との出会い—

室蘭と私の出会いは、大正十四年の秋頃岡山から札幌の中学へ転校し、修学旅行で函館、大沼を見学、森からはしけで定期船「吹雪丸」(五百屯位)に乗り、時化る噴火湾を五、六時間位かかってやっと室蘭着はしけで通船の埠頭に上陸した時だった。吹雪丸の船底では、腕白坊主もあちこちで小間物屋を開いて青菜に塩で萎れてしまったが、[㊦]本多旅館に入って元気を恢復、枕投げ合戦等あつて翌日は日鋼、日鉄を見学した。当時日鉄は敷地埋立工事中で今の国道三十六号線の両側はすぐ海で潮干狩りが楽しめたそうである。

その室蘭に御縁があつて敗戦後昭和二十三年八月からお世話になってもう古い。町名、地番改正等があつたが、町内には清い泉が湧き、その名が今もふさわしい泉町。頭の上には室蘭市総鎮守の室蘭八幡宮が鎮

座、更に西には各宗派寺院が連なり泉町は立派な門前町でもある。更にすぐ下には室蘭駅もある。

落着いて静かな、人の和の町、泉町の一住民であることを私は誇りに思っている。

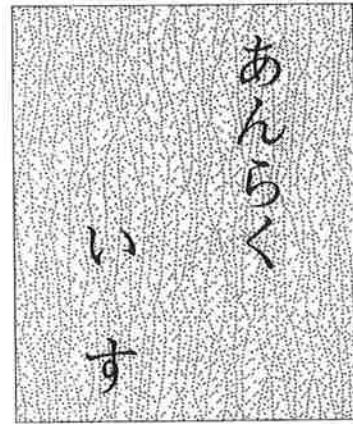
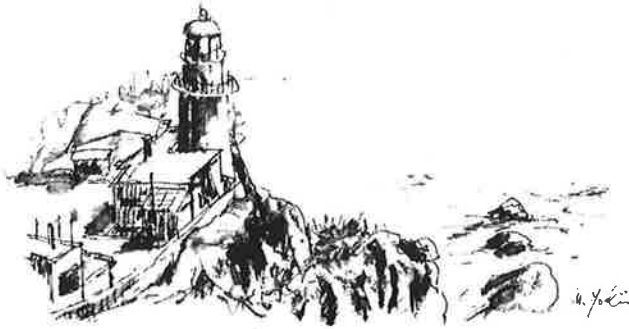
(完)

追記 本誌二号から「かなり古いお話」を書いて下さった小雲水こと北原隆先生が四月に逝去され、浄土を求めて行雲流水の旅につかれました。この世でもっとも健筆を振るって頂きたかったのに残念でなりません。

「室蘭との出会い」は昨年十一月の泉町会報「いずみ」に掲載された文章ですが、夫人栄子様と町会長高橋成造氏の了解を得て本誌に転載させていただきました。

先生のご冥福をお祈りいたします。合掌

(文責 大久保)



日本飛び歩く

庭園鑑賞を中心に

藤 兼 和 男

五十八年九月の事だったと思う。たまたま鈴木清順（鈴木健二の兄）の自作自演によるテレビドラマを見た。リュウマチに病む老妻をキャンピングカーに乗せて、日本全国夏は北海道、秋冬は九州と巡りまわる夫婦の物語りであった。ドラマの内容自体にも感銘を覚えたが、秋の夕暮の九州の西海岸の美しさには思わず目を見はった。それまで余り旅行をしなかった私にとって、それは驚きでありある意味の発見でもあった。年齢、まさに五十六歳。

定年（？）日本飛び歩く記の始まりである早速ルールを考えた。

(1) 原則として連休又は、土日曜を選び患者に迷惑をかけない。

医者と言ふ者は、不自由なもので明日休みますと急に決めるわけにはいかないし、数週間前より掲示していても、其の日の旅行先が好天候とも限らない。

(2) 旅行毎にメインテーマを決めそれを

中心にその周辺を見てまわる。

其の土地土地には、これだけは是非見たいと云うものがあり私は庭園を選んだ。

又副として美術館と決めた。

(3) 予め資料を十分に調べ旅行中無駄な時間を過ぎない。

その場所に着いてからいろいろ説明を聞くのでは、時間的に限りがあり短期決戦は出来ない。又急に旅先でルートを変更する時、その周辺の交通機関及び時間を予め知っていると非常に便利である。

(4) 見て来るのであつて食べるのではない。

食べ物はいくつあるかはあつても、全国そんなに変わるものではなく、有名な店は時間がかかって見物する予定に支障をきたす。

(5) 旅行中天候その他で自由に計画を変える柔軟性をもたせる。

これは非常に必要な事であり、第一計画と第二計画の少くとも二つのプランを用意しておかなければ、不本意な旅行に終る事がある。

以上のルールの下に計画立案が始まった各社の航空時刻表、国鉄、私鉄の時間表を入手して、それらを組合せて日程表を作る事は難かしい事ではあるが、推理小説の大ファンである私にとっては、例えばクロフツの作品のフレンチ（名探偵）になった様

な気になって非常に楽しい事であった。

次に日本各地の名所名園と云われている所の研究であり、その観光時期の決定である。この日本庭園の勉強には、日本の庭（毎日新聞社発行上下）名庭のみかた（中根金作著）京洛の四季（日本カメラ別冊）時期の決定には、日本の四季（毎日新聞社刊上下）などが非常に参考になった。

次に具体的な日程のサンプルの一つ二つを述べる。

(1) 土日曜の場合

土曜日午前中診療、午後より特急でただちに千歳空港に。東京又は大阪経由で夕方高松に着き、高松泊。翌早朝起床。

栗林公園（ここは朝が一番）五時半頃より開くので開園と同時に入り、一目散に飛来峯へ（ここからの景色が一番）、石に腰かけて見渡せば、紫雲山を借景にした庭園は幽邃そのもの。刻々と変る山肌、池の水の色の変化はまさに絶景である。

紫の雲たなびける栗林の

水面に映ゆる松かげゆらぐ

八時には瀬戸内海を渡り鷺羽山に行き瀬戸内の島々を見る。ついで倉敷、大原美術館を見て岡山に行き、後楽園をまわり岡山より東京経由で千歳へもどる。秋であれば倉敷の代りに高松から小豆島に渡り、一巡りして後楽園を見る事も出来る。

(2) 連休の場合

同じ様に土曜の午後、広島まで飛び岩国に泊る。早朝、木肌のやさしい錦帯橋を渡り吉香神社をお参りして宮島に。厳島神社を見学、弥山に登り再び広島にもどり平和記念公園、縮景園を見て、新幹線で新大阪↓ナンバ↓近鉄特急で志摩半島へ。ここで一泊。朝バスで二見ヶ浦、朝熊山、伊勢神宮を参拝して名古屋へ入り、名古屋城二之丸庭園を見て帰る。

以上の様な日程をこなすには、予めその地方の天気予報、交通事情を詳細に調べておかなければならない。

次に庭園に就いて簡単に述べると日本庭園は大まかに三つに分類される。

(1) 枯山水庭園

(2) 築山林泉式庭園

(3) 茶庭（露地）

その他、(1)と(2)の併設などがある。

(1) の枯山水庭園は、非常に禅の影響があり難解である。京都の竜安寺石庭は有名である。これは春夏秋冬何時でも良い。白砂に名石を並べて海と山になぞらえ、そこに禅の心を学びとる。私は石庭の縁側に正座し、座禅をくんでみたが、解ったような解らない様な、即ち難解である。それに比して大仙院書院庭園の枯山水は坊さんの説明もあつてか、彼岸と現世との対比を表わ

して居り、小さな庭であるが解る様な気がして来る。しかし、石庭の方が格が上の様な気がした。

(2) 築山林泉式庭園は、大名の庭園とも云われ全国各地にある名園は、この方式が多い。即ち、中央に池がありその中に神仙島と云われる小島があり、池に流れ来る又は、流れ去る小川を曲水としてそれに橋をかけ、四季の花を植え更に名木名石を配し池を中心として苑路を造り、その路に沿って歩けば、おのずから庭を異なった景色として鑑賞出来る。場所により所々に茶室風の庵をあしらっている。又、庭によつては遠くに名山を借景としてつかわれているものもある。

(3) 茶庭（露地）は、茶道の発展により茶室の前庭として造られたものであり、余り広いものではない。蹲踞（つくばい）石灯籠、名石を配し客にひと時の安らぎを与える。又鹿追等をしつらえてみると、より効果的な様である。

(4) (1)と(2)の併設庭であり京都のいくつかの寺の庭はこの方式をとっている。銀閣寺、詩仙堂等、そして、その代表が西芳寺（苔寺）である。この築山林泉式庭園の特徴は、其の名の如く回路のほかはすべて苔で覆はれ、昼なお薄暗く、老木が密生し秋の頃、苔の緑にもみじの落葉が散つてい

る姿はとても美しい。これは、NHKの大河ドラマ（山河燃ゆ）の撮影にも使われたその庭より潜り戸を開ければ、一転して枯山水庭園となり、その対比は非常に鮮かである。夢窓国師の作と云われている。

ちなみに欧州の庭園は、これ又三つに分類されている。

(1) 十六世紀のテラス噴水式（イタリア式）庭園

(2) 十七世紀の幾何学的（フランス式）庭園

(3) 十八世紀の風景式（イギリス式）庭園

である。イギリス式庭園が比較的日本式庭園に近いものと云われている。

以上、簡単に庭園の分類をしたが鑑賞の中心になるのは、やはり築山林泉式庭園である。主なものに、弘前の盛美園、水戸の偕楽園、東京の六義園、小石川後楽園、岡山の後楽園、高松の栗林公園、熊本の水前寺公園、京都には多くあるが、修学院離宮、桂離宮、仙洞御所等である。

又、城内にある庭園としては、名古屋城の二の丸庭園、二条城の二の丸庭園、神社の庭園としては平安神宮の神苑が有名である。又、昭和の近代的名庭としては、足立美術館の庭をあげたい。

庭とは云えないが自然美として感歎した

のは、上高地であった。梓川より見た焼岳大正池より仰いだ穂高の山々は、自然の築山林泉式庭園とも云える。ある意味では、人工の美はいくら勝れていても自然の美には到底及ばない感がある。

歴史的なロマンを感じさせるのは何と云っても大和路である。飛鳥の里の甘樫丘（あまかしのおか）に立って見る大和三山、石舞台古墳、吉野の里、これらを舞台にして演じられたロマンは小説を読むだけでは解らない。まさに万葉の地である。近年、発掘された平城京跡庭園は、千二百年前に曲水、洲浜、石組等、現在における日本庭園の要素を当時において、すでに有していたという事実が証明された。この事実は驚くべきことである。

次に、絵画を中心にした美術館について簡単に述べてみると、歴史的な背景もあってか日本の美術館の絵画の数はあまり多いとは云えないらしい。有名なのは、大原美術館（倉敷）上野西洋美術館、足立美術館（島根県安来）その他ブリヂストン美術館等である。例えば、大原美術館は展示されている絵画の数はそう多いものではない。

足立美術館は、横山大観を中心にした日本画の美術館であり、大作を含めてその数は多く、併設されたその庭園と共に、地の利は悪いが一見に価する。又ブリヂストン美

術館は、東京駅より二〇〇米位の所にありその看板も余り目に付かないが、印象派を中心にした名画が展示してある。特にピカソの初期の作品は、後期の作品と違って、我々一般人にも理解出来る作品であった。私も東京の浜離宮庭園を鑑賞している途中雨に降られたので、急遽訪れてみたが感銘を覚えた。

その様に途中雨に降られた時にそなえて副次的なプランをたてておく事も必要な事である。

最後にここ二年位の間に訪れた日本庭園の印象に就いて述べてみる。

所謂三大名園、四大名園と云われたものに就いては、それぞれ春秋二―三回行ってみた。何れも素晴しかった。兼六の桜、紅葉。偕楽の梅、栗林の松と池。おおらかな明るさをもった後楽園、何れも四季によってその趣を異にし、それぞれの美しさを見せてくれる。又、時間的要素であるが、朝がなによりも良い。先に述べたが、栗林は三回（五時半開園）行ったが早朝に限る。

天候は、晴にこした事はないが、今年五月に訪れた時の桂離宮（三回目）は小雨にあった。

しつとりと濡れた桂離宮の風情は、今までの二回とは又違った感動を与えてくれた。特に雨に濡れた敷石の美しさは、桂離宮な

らではの趣があつた。

何れにしろ、四大公園は少くとも春秋は鑑賞する価値がある。

その他にも庭園とは云えないが、六道湖の夕陽、霜に覆われた錦帯橋の朝、長崎の夜景、島原五橋の夕陽、鷺羽山よりの瀬戸内、室堂高原より見た剣岳、等は失望することはない。

修学院離宮、これは桂離宮と共に多くの書物によつて紹介され、NHKの日本の庭園等で放映されているので、今更書く事もない。私も実際拝観する前に数冊のこれらの写真集及び解説書を手して熟読し、帰蘭して又読み直した。そして修学院離宮に憑かれてしまった。何と表現してよいかわからないので、故立原正秋氏の著、日本の庭の一部を抜粋して載せてみたい。

『上御茶屋からの眺めは、物体が占める空間的な広がりにおいて直線的である。いわば有限の長さの直線を鞍馬、貴船に一致させるようにつくつてある。これだけの審美家はそうざらにはいないだろう。この審美家後水尾上皇は八十五歳まで生きていた……中略 私に紅葉谷から引きかえして足をとめたのは、楓橋を渡つて窮蓬亭に達しそこからおりて土橋にさしかかった時だった。堰堤の大刈込みの向うに空が広がっていたのである。勿論、こちら側は、大刈込

の裏側だから刈込の上部の線だけが生垣になつてゐる。その刈込の線が空との間を劃してゐるだけで、余分なものはない。

隣雲亭から眺めた鞍馬や貴船のやまなみはどこに消え失せたのか。眺める場所が違つてゐるから、やまなみは右手の林の向うにあるはずだ。等と言つてはいけない。それは美を理解しない者の言辭だろう。本当に鞍馬と貴船のやまなみはどこに消え失せたのだらう。空と刈込の線と手前の池の水のほかに何もなければ、勿論借景もない。隣雲亭からの眺めは、ひとりの審美家が、有限の長さの直線を向うのやまなみに一致させるように設計してあつたが、ここにはそれと反対に無限空間がある。作庭の軸は木と石と水である。ところが、ここには空が無限に広がっている。』

修学院離宮の拝観時、私は故立原正秋氏もここより眺望し此の様に感じたのかと思うと涙がこぼれた。そして御水尾上皇の美に対する夢に脱帽し、短歌を捧げた。

西浜にただずみしのぶ上皇の
夢を想ひて時をわするる

カントは、其の「判断力批判」の中でそのものを所有したいと思つたならば、美の鑑賞力を失うと書いてゐる。誰も修学院離宮や桂離宮を所有したいと考える者はない。だから、素直にその美にふれること

が出来たものではあるまいか。

何れにしても日本と云う国の美しさの一部に触れる事が出来、感ずる事が出来たのは倅せなことである。

終りに、もしもこれから庭園の巡り歩きを志す方がおられたら、修学院離宮、桂離宮は、後の方にしてほしい。何故ならば、他の庭園が色褪せて見えるからである。又逆にそんなに、あちこち見る暇が無い方は修学院離宮、桂離宮のみを見てほしい。何故ならば、日本庭園の美はここに結集しているから。

医者が出る幕

出れぬ幕

松田 幹人

「皆様におたずね致します。三号車内で患者が発生しました。列車の中にどなたかお医者様がおりましたら車掌までお申し出下さい」。旅行中にこんな放送に出会つたことがきつとあることと思う。この様な時、その列車内にもし医者居ればどのような反応をするのか私にはいささか興味がある。この様な時、私の想像では大抵の医者は「これだけ多数の乗客の中にはきつと一人

や二人くらい自分の他に医者が居るにきまつている」と自分に言いきかせて自分の降りる駅が早く来るのを待っているか、二度三度と放送がかかると、良心の呵責に耐えかねてしぶしぶ自分が医者であることを名乗り出ることになるかのどちらかであろうと思われる。

また医者であることをたとえ名乗り出たとしても患者に会うまでは状況がわからず自分の専門外の患者であればどうしようといささか不安な気持ちになるはずである。いっそのこと初めから車内放送で「患者さんは昨日少し古くなったサシミを食べたため何度も吐いてお腹が痛くてころげまわっています」とか、「患者は車内で産気づき、児頭の一部が見えています」とか、「てんかん発作らしく、白目をむいて泡を吹いて倒れています」とか、もっと詳しい情報を教えてくれればその分野で少しは自信のある医者が名乗り出してくれる機会がきつと多くなるはずである。

それではその様な時この私はどうするかというと、御多分にもれず「此頃は昔より医者の数がずっと多くなったはずだから、きつと積極的で人類愛に燃えた医者が必ず二人や三人居て、もう医者であることを名乗り出ているに違いない。今頃、のこのこと出て行っても邪魔になるだけだ」と自分

に言い聞かせ車内放送が一度で終ることを期待していることが多い。幸い、今まで一度も私が医者であることを名乗り出なかったために、人が死んだり誰の助けも借りずに赤ん坊が車内で生まれたなど聞いたためはない。

ある国鉄列車内での出来事

しかし、一度だけ道内の国鉄列車の中でどうしても医者であることを名乗り出ざるを得ない状況にでくわしたことがある。

患者は老婆で、車内の人いきれとタバコの煙に酔って具合が悪くなったらしく、青い顔をしてひたひたに汗をかき、ぐったりしていた。案の定、車内放送で医者と呼ばれ出されたが、始めは医者であることを名乗らず状況をしばらく見ていた。大抵、その様な時には、周囲の人の中からリーダー的働きをする人が出て、自からあれこれ世話をやいたり、テキパキと周囲の人に指示をして、事を運ぶ場合が多い。この時は、中年の女性が救世主よろしくこの老婆の面倒を見始めた。そして、周囲の人々もその人の指示に従って、席をゆずって寝せてやつたり、タオルにつめた水で顔を冷やしたり、あれこれと世話をやり始めた。

医者であることを名乗り出るタイミングがすっかり遅れてしまった事を後悔しながら、

ら、また一方では、この患者が命にかかわる重大な病状にあり、医者がそばに居ながら何もしなかったと責められる事を恐れながら、一応脈や意識の状態や瞳孔だけでも診ようと思い、医者であることをおぼすと名乗り出た。もとより、その様な車内には聴診器も血圧計も、瞳孔を見るライトなどあるわけがなく、極めて大ざっぱな診察しかできなかった。幸に脈はしっかりといたし、少しぐったりしてはいたが意識ははっきりしており、瞳孔も見たとこ正常であった。

ここまでたった一、二分で医者である私が出る幕がなくなり、後はもっぱら救世主である中年女性の一人舞台となった。見ているとこの様な状況で、その老婆に必要と思われる処置はすべてぬかりなく行われており、私自身は何もする事がなく、唯ぼさつとして老婆と救世主を眺めているだけであつた。

周囲の人は「何とこの医者は使いものにならないでくの坊なんだろう」と思ったに違いない。私の降りる駅まで何とも間の悪い時間であつた。

あるアメリカ女性の眠剤自殺事件

この様に普段から私の最も恐れている状況が事もあろうに数回の外国旅行中二度も

ぶつかったことがある。

一度目の出来事はもう十二、三年前になが、Boston の Massachusetts General Hospital (MGH) の近くにある研究所に約一ヶ月半、short term Visiting scientistとして滞在していた時の事である。短い滞在ではあるし、アパートを借りるのも面倒なので、同じ研究所で一緒にリサーチをしていたスコットランド人のジムのアパートに居候をきめ込んでいた。土曜日の夜中頃であつたと思うが、もう寝る用意をしていた時、ジムの同郷の女友達から電話がかかってくる。彼女の女友達が眠剤自殺を図つたので何とか助けてほしいとのことであつた。実は、ジムはリサーチの専門家で医者ではなく、ジムの同郷の女友達に私はそれまで何度か会っていたので、私が医者であることを知って助けを求めてきたらしい自殺を企てた女性は、MGHの事務員として働いていた女性であつた。とにかく、彼女のアパートに向いてみた。彼女は結婚していたが旦那は留守で、付添っていたジムの女友達の話によると、旦那は彼女を残して一人でどこかへ一泊旅行に出かけたとのことであつた。自殺を企てた彼女は、常々旦那に愛人がいるのではないかと考え、思い悩んでいたという。そこまではアメリカでも日本でも女性の自殺の原因として最

も多い話である。

彼女は軒をかいて眠っていた。胸のあたりの皮膚をつねったり、胸骨の上をゲンコを作つてギリギリと圧迫してみると、表情をゆがめ反応するし瞳孔反射もあり、そうした深い昏睡ではなさそうであつた。

この様な状況では、日本では先ず救急車を呼び、夜中であつてもあたりはばからずピーポーピーポーとサイレンを鳴らして病院に運ぶのが常である。そして、患者に同情が集まり、近所の人達が入院の用意を手伝つたり、ことによると次の日は見舞の品がいくつかが届くことがあるかもしれない。

私も当然の事として救急車を呼び真先に病院に運ぶことを提案した。ところが付添つていた友達が血相を変えてそれだけはしてくれないと哀願したのは全く驚かされた。話を聞いてみると、自殺という行為に対するアメリカでの評価が日本とは可成り違ふのである。宗教上の理由のためと思われるが、アメリカでは、自殺は大変罪深い行為で、救急車など呼んで近所の人々に知れ渡ると彼女は以後この近辺には住みづらくなるし、まして彼女の勤務先の職は確実に失わなければならないであろうとのことであつた。

この様な場面に出くわして、もしも運悪くこの患者が死亡したら一体日本の医者で

あつてアメリカでは医者の資格のない自分はどうなるのだらうと考え、アメリカの裁判所の審問台の上に立たされ厳しく詰問されている自分の姿を想像し始めた。とにかく、しばらく様子を見て昏睡が深くなり、生命が危くなるようであれば誰が何と言おうと救急車を呼んで病院に運ぶことを決意し、しばらく様子を見ることとした。

私自身病院の中にいれば色々な道具を使って患者の状態を診察したり、胃洗浄を行つたり、テキパキと医者らしく処置をすることが出来る。しかし血圧計はおろか聴診器も何もない状況では医者としての働きは何一つできなかった。言ってみれば、現代の医療では医者は道具もなしに病院の外に一步でも出ると、もはや医者であつても医者

の働きは何一つできないのである。この場でせいぜいできる事は皮膚をつねつて痛みの反応を診たり、懐中電燈で瞳孔を診たり、脈の強さをあやふやな触覚をたよりに診ることくらいである。この様にして、胸の皮膚を何度もつまんでひねつたものだから、そのうちに胸に青痣が沢山できた。しかし、幸い昏睡が深くならず明け方になると、少しづつ反応が出てきたのでようやく私は落ち着くことができた。その間旦那の行く方を警察に頼んで探してもらつた。明け方になってようやく彼に連絡がつ

き、朝六時頃帰ってきたので後は彼にすべてをまかせ、逃げるようにアパートに帰ってきた。

このような状況はちょうど自分が主役であると思ひ込んで舞台に出た役者が実はせりふも衣裳もアクションも何も用意されておらず、すごすごと舞台を下りたようなものである。

航空機内での低血糖発作

医者であることを名乗らざるをえない状況に出くわしたもう一つの事件は、カナダのモントリオールからサンフランシスコまでの約八時間のエア・カナダの飛行機中で起きた。

私の隣に坐った男が三十歳くらいのインド人で、アメリカの郊外デパートにインド製の安いシャツやブラウスを何とか売り込もうと派遣されたセールスマンであった。この旅行の前に香港に行ったことがあり、二度目の外国旅行ということであった。相対の田舎っぺで、「香港は日本では何番目の都市か」「お前さんは日本の医者か。それでは香港で医者をやったことがあるか」など、どうも香港が日本の一部と信じているようである。私は「香港は日本の一部ではなく現在はイギリス領で……」と説明しかかったが、周囲の人がニヤニヤして

いるしあまりにバカバカしくなったので説明をやめてしまった。すると、このインドの田舎っぺが、最後まで香港が日本の一部と思ひ込んで話をしていった。そのうち機内食が出されたがこのメインがステーキであった。インド人は聖なる牛を食べないと聞いていたのでどうするのか見ていると、やはりスチュワーデスに他の物と代えてくれるようお願いした。「この機内ではインド人はお前一人ではないか。誰も見ていない時に牛を食べたら一体どうゆうことになるのか」と聞いたところ、この田舎っぺが驚いたように口をぽかんとあけて、私の顔を見ただけで何も答えなかった。考えてみれば私自身もひどい愚問を發し、彼に負けず劣らず相当の田舎っぺであったわけである。

こんなトンチンカンな話をしている最中に機内放送がかかった。「この機内に患者が発生しました。どなたか医者はいませんか」私の最も恐れている事が起った。おまけに隣の田舎っぺが「お前は医者だろ。何故出て行かないか」と言い、二回、三回と放送がかかると「オーイ、ここに医者が居るぞ」と機内中に聞こえる大声で叫んでしまった。これは困ったことになったと思ひながら、もう後に引けなくなつたので仕方なく出て行くと、チーフパーサーが私を患者の所につれて行つた。

患者は中年の女性で、既に意識がなく手を少しピクピクと痙攣させていた。一体何が起っているのか初めのうちわからなかったが、額にうっすらと汗をかいており、よく見ると見慣れない腕輪をしており、それには「an diabe」と書いてある。それですぐに低血糖発作であることがわかった。患者の隣に坐っていた乗客に聞いたところ、機内に入ってから砂糖の入らないコーヒを一ぱい飲んだだけで、もう六時間もの間何も飲み食いしていないという。彼女のハンドバッグを開けてみると、血糖測定用のスティックと小さな採血用のナイフが入っていた。測定してみると、案の定、血糖25mgと出た。これは大変なことになった。低血糖を二時間も三時間も放置しておく、脳に不可逆的变化が起る。あとサンフランシスコまでは二時間はかかるはずである。意識がないので径口的に食べさせたり飲ませたりすることはできない。念のためスチュワーデスに注射器とかブドウ糖のアンブレがあるかどうかたずねたがその様なものはあるわけがない。この時、私はまたしても低血糖を長時間放置した無能な医者として患者の家族から訴えられ、アメリカの裁判所に立たされている自分の姿を想像し始めた。

この様な状態がもつと進むと全身の痙攣

が起るであろうとスチュワードに予告し一方機長にはなるべく早くサンフランシスコ空港に着くよう、そしてブドウ糖の点滴を用意し、すぐに機内に医者を入れるよう指示をした。そして何とかこのままでサンフランシスコまで様子を見ようと考えた。しかし予想した通り最悪の事態がやってきた。患者は全身痙攣を起し始めた。私は再びスチュワードのたまり場に駆け込み、救急箱の中にチューブの様な物を探させたしかしその様なものは何一つない。

この様な緊急の事態になると私はどちらかというところの働きの停止してしまうのが常である。為す術が全くなくあきらめかかった時、どうゆうわけか機中に酸素マスクとそれに連なるチューブがあることに思い付いた。「これだ」と考え、それをスチュワードに持って来させ、そのチューブが人体に挿入するには少し太く硬過ぎることもかまわず鼻孔から可成り乱暴に挿入しながら入ったので食道に入ったことを信じスチュワードにコーヒの砂糖をできるだけ沢山溶かして持って来させ、酸素マスクを逆さにして、その砂糖水を胃袋の中に流し込んだ。

低血糖発作の患者に経口的にせよ経静脈的にせよ糖を与えた時の回復の早さは医者に

であれば誰でも知っている通り、五分とたたぬうちに患者みるみる意識が回復した。私自身もびっくりするくらい回復の早さであった。

予定時間よりも三十分も早く機はサンフランシスコ空港に着き、滑走路にはアンビュランスが待機しており、機が着くと同時にブドウ糖の点滴バッグを持った医者が三人機内になだれ込んできた。しかしその時患者はケロッツとしていた。

ぼうふら考現学

安 斉 哲 郎

「おたまじゃくしの生い立ち」の次は「ぼうふら考現学」ということになるが、何やら水中動物学の連続講義のようになるが、ぼうふらとは又の名を棒振りとも称し、楽隊用語で指揮者のことである。大方の本誌の読者の紳士諸公は日曜日ともなると芝生で棒振りをされるであろうが、ここにいっ棒はそれより遥かに短く、軽く、かつ安くおよそ楽器店の商品の中でこれより安価な品は無いという代物である。

指揮者という役目が公認の職業となつたのは意外に新しく、その草分けはメンデルスゾーンであるといわれる。指揮棒という道具を發明したのも彼である。それまでは作曲家がチェンバロの前に座つて鍵盤を叩きながら時に手を振るか、またはバイオリン弾きが弓を振つたり首を振つたりしながら演奏するのが指揮であつた。もつとも、作曲家の中にはチェンバロを満足に弾けない人もいるから、その時は楽譜を丸めた紙の筒を振つて所要所で合図するだけであつたし、十七世紀頃には長い杖で床を叩いて拍子を取つたという記録がある。これではコツコツという非音楽的な音が鳴り響くので、「木樵り」とあだ名されていた。リユリという名のフランス宮廷お抱えの偉い作曲家は、太陽王ルイ十四世の御前演奏で張り切りすぎて、我と我が拇趾をイヤという程つ突いてしまい、それが元で脱疽に罹つて死んだという。ベートーヴェンが自作の第九交響曲を初演した時には、やはり楽譜を丸めて指揮をしたのだが、彼は完全に聾になつていたのでその指揮は支離滅裂で、もう一人の指揮者が彼に知られないように後に立つて指揮を取つたという。

指揮という行為についての教科書を最初に書いたのはベルリオーズ、次いでワグナーである。この頃から指揮はただ拍子を取

るだけでなく、音の強弱や表情をも表現する行為となったのである。

一般の方が不思議に思っただけで質問されることは、一体楽譜を見ながら同時に指揮棒を見るなんてことが可能なのか、平たく言えば演奏者はほんとに指揮棒を見てゐるのか、ということである。ところがチャンと見えるのである。しかし楽譜の上縁と視野の上縁との間の限られた空間に、したがって視野の端に見えていただけであるから、この空間からはみ出るような大きな身振りをしても、視野からはみ出てしまうだけである。だから老練な指揮者ほど身振りは控え目なものだが、われら凡人の浅ましき、つい大げさな身振りになってしまうがちなのである。もう一つ指揮者の能力を見分けるコツ。両手を絶えず対称的に振っている人がいるが、あれは無意味である。自分の表現力に自信のない人ほどそうなりがちなのだが、片手では足りない表現力は、両手を使っても決して倍になどなる筈がない。

そもそも原則として、右手の棒ではリズムとテンポを、左手では表情や強弱を、ということになっている。だから指揮者の左手を見て、それが右手のリズムと無関係に有効に使われている指揮者が上手ということになる。たとえば、左手で重いものを持

ち上げるような動作をしていれば「もつと強く」という意味だし、掌を下に、何かを押えつけるような動作をしていれば「もつと弱く」という信号である。もちろん右手の棒だって表情と無関係というわけではない。歯切れのよい音と滑かな音とでは棒の動きも違ってくる。門下から小沢征爾をはじめ大指揮者を多く世に出した斎藤秀雄という世界一の指揮教育家の成功の秘訣は、右手の棒の振り方を何種類かに分類して、スポーツ的な訓練をする方法を発明したことにあると言われている。とは言うものの音楽の指揮という技術的な面には共通の原則など何もない。唯一の原則は、強拍はタテに、上拍は斜上方に、ということだけである。それさえチャンと守られていれば、少くとも音の出だしは揃う筈であるが、プロの指揮者で通っている人の中にもそれぞれ守らない人がいる。スレッカラシのプレイヤーに「〇〇さんの指揮なら目をつぶって弾いた方が合う」などと馬鹿にされるのはこういう指揮者である。

という指揮者無用論と思われるかも知れないが、良い指揮者なら睨みをきかせるだけでプレイヤーは引き締まるし、ほんの僅かな動作で莫大なメッセージを楽員に伝える術を持っているのが大指揮者といえるだろう。本来指揮者の役割というのは、楽譜の

表面に書いてないこと、前号「おたまじゃくし」でラチチュードと書いたことを処理する点にある。だからマーチング・バンドのようにテンポの動揺など全くない音楽なら指揮者は不要である。先頭で長い杖を下下に振っている偉そうな人は、それに続くバトン・トワラーの娘たちと同様、飾りにすぎないと言ってもよい。

同じ舞台芸術でも演劇の演出家の方は、練習でこそやかましく駄目だしをするのに本番では何の役にも立たないが、指揮者は本番でも気を抜けない。しかし本来指揮者の本領発揮はやはりリハーサルの時なのである。アマチュア指揮者としての嘆きは、プレイヤーの技術的制限のためこのリハーサルに絶大なエネルギーが必要なことで、プロの指揮者などこれに比べれば楽なものだろうと思う。

棒を見馴れていない人は、テレビなどで見ると棒と音が少々ずれているように感じずと思うが、それは正解である。棒の方が実は常に音よりも半拍先に動いているのである。つまり、棒が振り下されている間に表情も表現されるが、その拍の音が出るのは振り下された棒が降りきつてはね上がる瞬間だからである。そうでなければいかに指揮者が張り切って表情を指示しても、間に合う筈がない。応援団長の日の丸扇子

と指揮棒との根本的な相違の一つはここに
ある。カラオケバーなどで指揮者の真似を
なさる時はこのことを心得て置かれると女
性達の尊敬をかちとることもあろう。ただ
し、馴れないとあまりたやすいことではな
い。厳密に言えば、その音が出る瞬間も管
楽器と弦楽器とでは微妙なズレがある。管
に息を吹き込んでから音になるまで何ミ
秒かの潜在時間が要るからである。弦楽器でも
コントラバスのように大きいとやはりコス
ッてから音になるまで少々時間がかかる。
馴れた指揮者はこんなことまで計算に入れ
て振っているのである。つまり指揮者は一
方では半拍先に自分の頭の中の音楽を棒で
表現しながら、一方では半拍遅れた実際の
音を聞いて必要な修正を指示するという離
れ技を演じていることになる。

この頃はテレビのせい、指揮者が格好
ばかり気になるようになって、語譜で振る
のが格好よいという風潮になり、譜を目の
前に置いている指揮者は野暮と思われるが
ちである。しかしこれは語譜指揮を流行させ
た張本人トスカニーニがド近眼だったから
で、彼は止むを得ず語譜したのである。ト
スカニーニと覇を競ったフルトヴェングラ
ーは、「楽譜が邪魔で指揮が出来ないのはヘ
ボだ」と言ったとか。もっとも、指揮者の
神様といわれたハンス・フォン・ビューロ

ーは「良い指揮者は頭の中に楽譜を突っ込
んでいるが、悪い指揮者は楽譜の中に頭を
突っ込む」という名言を吐いている。

ド近眼のトスカニーニの語譜力たるや大
したものだったらしい。ある時コントラフ
アゴット奏者が彼の所に来て、「楽器が壊
れてしまつて、コレコレの音が出ません。
どうしましょう」と相談したところ、かれ
はややしばらくジット考えた後、「安心し
なさい。今日の曲目の中でその音は一度も
使わない筈だ。」と言つたという。頭の中の
楽譜のページを全部繰つてからの筈なので
ある。不肖小生も若かりし頃は全部語譜で
指揮したものだが、年とともに記憶力減退
して、この頃ではおうむね語譜はしてい
ても楽譜を置かないと不安である。

語譜指揮が流行だといつても、エチケツ
トというか、マナーというか、協奏曲を指
揮する時には独奏者に敬意を表して楽譜を
置くのがしきたりである。楽譜を置いても
そのページを一度もはぐらない指揮者もい
る。私に言わせれば指揮の能力の大半は読
譜力であつて語譜力ではないから、さきに
引用したフルトヴェングラーの言葉の方が
正当だと思つている。それでは読譜力とは
何かということになるが、前号「おたまじ
やくし」に書いた五線譜のアナログ的性
格の面を即座にパターン認識し、かつそれ

を頭の中で音に翻訳（ソルフエージという）
する能力である。

一体オーケストラのスコアとなると、比
較的構造が簡単なベートーヴェンの初期の
ものでも十五、六段の五線譜が縦に並んで
いるから、それを全部同時に読めるわけが
ない。しかも「読書百遍」と違つて、読譜
は音楽の進行と同じスピードで、リアルタ
イムで進まなければならないのだから、指
揮者は決して楽譜を「読んで」などいない
眺めているに過ぎないのである。読書にも
斜読み速読法というのがあるが、正しくあ
れである。

私はこの頃弦楽合奏用の現代曲を指揮す
るのが特技という定評をいただいている。
本邦初演と覚しき曲もたびたび演奏してき
た。この場合はレコードなどを真似るわけ
にはゆかないから、まさに読譜力の勝負で
ある。楽員の誰やらがどこから手に入れ
て来た新しい譜をほんの二、三分眺めた
だけで直ちにリハーサルが始まることもあり
そんな時には楽員からいささか尊敬のまな
ざしをかち取るという次第である。

「男は背中で勝負する」というそうだが
なる程、指揮者だけはたしかにお客さん
にお尻を向けている。そしてここだけの話だ
が、ときどきお客に見えないようにさまざ
まな合図をする。曲が始まる前にネクタイ

でもいじっているふりをしながら指だけを動かして曲の速度をあらかじめ指示することもあるし、汗を拭くふりをしながら鼻をつまんで見せれば「弱音器の用意を忘れるなよ」という信号である。そんな愛嬌でプレイヤーの緊張をいささか解いてやろうという工夫である。昔懐しいデユヴィヴィエ映画「運命の饗宴」にカリカチュア化された指揮者の悲哀が描かれていたが、指揮者の背中とはしかに数かずの男の悲哀を背負っているのである。

チベット弥次旅行記 (続)

米澤 堡

前回は序論だけに終り失礼しました。続編は又々生来の怠惰癖で編集子の再三の督促にも不拘、二年越しになり、誠に相済みなく思っています。

小生数回、所謂辺境、秘境、桃源郷と云われる所の団体旅行に参加しましたが、帰国後団員よりスナップ写真を贈られる事があります。見ると団体記念写真には小生滅多に写っていません。離れ猿の様に群から

離れて現地人の中に紛れ込んでいる写真が多いのです。大抵の観光客はガイドの後から金魚のウンコみたいに連らなって不確な日本語の不確な歴史的説明を聞くか、カメラを二台、三台と首にぶら下げ写真に夢中になる人が多い様です。

ラサ観光の目玉は数ヶ所ありますが、今回は小生が最も足繁く徘徊した大昭寺周辺の八角街を中心に記し度いと思います。大昭寺はパゴタ宮の南東約四、五百米の所にあり、唐の長安から政略結婚のため文成公主が持参した釈迦牟尼仏を祭っている寺院でラサ最大の信仰のメッカです。

ガイド曰く八角街はチベット人の集る場所、無学文盲で不潔、怠惰で拘摸が多いからよくよく懷中物には要心する様にと、蔑視の言を吐きます。一方チベット人は漢族に対し、中共への併合、活仏ダライラマのインドへの亡命を余儀なくされた事等の無言の抵抗で必ずしも融和状態にあるとは思えません。チベット案内書には工人帽を冠った群集が八角街にあふれている写真を見ますが、小生の見た八角街には漢人は殆んど見当らず、宣伝用か公式用の写真と思われまふ。元来チベット高原の遊牧民は自然の摂理に従って悠々と漂泊し乍ら家畜をふやし、物々交換を主とした民族です。勤勉に働いて、自分で種付けしても家畜をふ

やす事は出来ない話で、彼等には勤勉と云う觀念がない民なのです。それを人民公社とか生産大隊に閉じこめ、ノルマを課し、賃金生活を強いても偉方の思う様には経済發達は望めません。今はチベット自治区となり当分の間、無税で保護されていると聞きました。

観光団員は連日寺院巡りですが、小生は他の寺院も大同小異と勝手に判断してしばしば八角街附近で途中下車させて貰いました。バスの中では米澤先生(空手、書道の先生と自称)は「八角街の帝王」と綽名していたそうです。

大昭寺門前の大きな石畳は数百年來の信者の五体投地の札で、両掌をこすりつけた跡と膝をつけた跡がなめらかに凹んでいる。輪廻転生の後生を願ってオンマニベメムと六字真言を称え乍ら際限もなく五体投地を繰り返している姿にカメラを向けるのは眞実躊躇いを感じました。寺内に入ると窓のない伽藍で、諸仏の前には羊、野羊、ヤク等のバターの灯明と線香の煙が一杯で暗く、視力の衰えた我々文明人には足元がおぼつかなくチベット人と肌を接しておぼげな仏像や仏具を横目で一寸見ながら、ようやく堂外に出る仕末でした。一周約四百米もあろうかと思われる八角をラマ教の札に従って右廻りに老若男女の群集が、或

いは菩提樹の實の数珠をまさぐり、或いはマニ車（中に経文が入っている）を右廻りに廻し乍ら教文を唱え、何回も八角街を巡っている。道の両側には間口の狭い小店が僅かばかりの日用雜貨を並べ、住居も狭い押戸の中に数家族が中庭を挟んで暮して居る。夏の太陽が燦々としている道傍の壁際に老婆二人が上半身裸になっている。日焼けと垢で黒褐色の肌、干柿の様な皺だらけの乳房が胸壁にへばりついていて汚れた着物の襷からシラミが何かの寄生虫を取っている。いい被写体と思い離れた所からカメラを向けた途端気付かれて横に向かれて仕舞いました。厳しい環境に育った彼等彼女達は非常に感覚的で所謂第六感が鋭く身を守る感性が旺盛な為でしょう。

男女共々汚れたダブダブの服装で懷には食料（裸麦こがしの入った袋）木製の茶碗一個（他家に招待された時も持参の自分の碗を使う）を入れ、腰には女は小刀や糸と針の入った銀製の容器、男は動物も解体出来る大きめの山刀をぶら下げている。生活必需品、宝物等は一切身に着け移動する時も寝る時も体から離さず、着たきり雀の生活を想像してみて下さい。降雨量が極度に少いチベット高原の人々は、産れた時、結婚する時、死亡した時の三回丈、一生の内に顔を洗うそうです。

それにしても男女共色々な装身具を身に着けている。元来人間は身を飾る本能的なものがあつたのが、近代人は種々の制約でこの本能が枯渇したのではないかと愚考していますが、錯覚かな？。先づ既婚か未婚か判らないが若い女性に接近してネックレス、指環等を譲つて呉れないかと身振り手振りでアタックしてみました。中国円が欲しいのか直ぐ値段の交渉に入り、手掌か紙にボールペンで相手の希望価格を周圍に集つた物見高い群集の中で、字の書ける男が代筆で書き、折合のついたところで商談成立と云う訳です。

いろいろな松耳石、琥珀、硝子玉等のネックレス、銀製の玉入りの指環や小刀、また糸と針を入れる銀製容器等々を求めました。その間に十重廿重と人が群り、品定めしている小生の眼前十糧位の所に品物を突き出して「クチュ クチュ」と云っている多分「どうぞ どうぞ」と云っているのでしょうが品定めも出された品物も判然と見れない状態でした。優しく捌くのに一苦労し、記念にと思ひ彼女等を写真に収め、群集から脱出する時も再度の苦勞をしましたがラサ滞在中、何度も群集に取り囲まれましたがガイド曰く、小生を探すのは簡単で必ず人の群の中心に居ると。

写真を撮つた時にレンズキャップを置き

忘れたのを若者が追い駆けてきて届けて呉れました。ガイドが注意したのとは逆に彼等彼女等は純真な人間なのです。

向うから小生に注目し乍ら近寄つて来る男がいる。傍に来て懷の中を一寸覗かせる一見してラマ教の仏像、仏具と判りました。

中共がチベット解放の時、多数のラマ寺院を破壊した折、下層ラマ僧や民衆が一緒になつて略奪破壊したそうです。盗品ですから街頭で堂々と売る訳にもいかず、買ひそうな人を物色していたのでした。売買交渉も人家から流れ出た汚水でグチャグチャした路地裏か、又は小店の小窓一個の薄暗い部屋の一隅を身振りで借りて交渉するのです。三日程此処に通つての蒐集品物を萃げると、金銅製の釈迦像、裸の女体を踏みつけている忿怒神像、厚く鍍金して金色燦然顔容鋭いラマ僧像、細密な鑄金彫金のラマ立体曼陀羅像（仏像十一体含歡喜仏、骸骨とも思える奇怪で卑猥感を超え緑青が吹き出している歡喜仏、密教仏具、銀製龍顔打ち出しの仏龕、恐らく西藏大蔵經典に貼られていた麻地に密陀僧（絵具の一種）で画かれた時代物の仏像画十数葉です。

此処で一言注意を申し上げますが、此れ等蒐集品は上海經由でフリーパスで日本に持ち帰れましたが、五十七年に九州の骨董

商三、四人で買い漁ったチベット物品は中国出国時に広州税関で総て没収され罰金もとられ一時拘留されたそうです。西藏古来の文物は総て文化財に認定され国外持出禁止の措置がとられて居ります。西藏旅行は広州經由となり、税関では二人掛りで徹底的に検べられる様になっています。

また本論に戻りますが、前述の通り男女共装身具で身を飾りますが男性の方がいい物を持っている様です。本を読んで知ったのですが二億年前とも一億五千年前とも云われる時代に印度亜大陸が亜細亜大陸におつかり、海底だったチベットが海拔平均四千米の高原に隆起し、一方ヒマラヤ連峰が誕生したのだと云われています。海であったチベットには珊瑚も勿論繁茂し、隆起の際強圧と高熱により樹枝状の赤珊瑚が恐らく黒い団塊状になり地表に現われたのを磨いてみたら美しい紋理のある珊瑚玉となったのでしよう。大昔よりチベット人は此れを宝物として子々孫々に伝えた物と思われ山珊瑚と称しています。英語で珊瑚はCoral Coralline は珊瑚の化石です。

路上で見事な山珊瑚の首飾をつけている男を見つけ、見せて呉れと頼んだが紐が短かく頭部から抜けない。結び目はコンガラがつて解けない。遂に歯で噛み切つて了つた。品定めして交渉したら仲々高価に思わ

れたので頑張つて少々値引きをさせ懷中を叩き求めました。考えてみるとチベットとネパールの国境に自由な交易市場があり此処で物品の公定価格が決まり、通信機関のないチベットでも口込みで全土に驚くほど速く伝わるのではないのでしょうか。

ところが又々頭髮に極大の山珊瑚を着けている男を見つけ、求めようにも中国円が僅かしかなく、明日また会おうと身振りで約束して宿舎に帰つて聞いてみたら、明日は日曜日で人民銀行は休み、明後日はラサ出発日である。残念乍ら明日は霞降る五千米の峠を越えての湖畔迄のオプショナルツアーに参加の羽目になり残念至極。

以上の様な弥次旅行から帰国して家で蒐集品の洗滌消毒を始めたら物凄く悪臭がする。その後も二十日間程、外出から帰つて玄關を開けると悪臭に悩まされました。毎日蒐集品の手入れをし乍ら八角街の事を反芻。まさかチベットで八極四方の海老錠など入手出来ようとも思わなかった錠を洗つてみたら底面に金張金が残っている。矢張り寺院からの盗品か？。

屈強な大男の東部チベット人から追い剥ぎの様に身ぐるみ求めたフェルト状のチベット服を肩に掛けて宿舎に戻つたら、額の生え際や手首が痒く、発赤して淋巴液が漏出し帰国まで絆創膏を剝すことが出来ませ

んでした。多分家ダニに刺されたのでしよう。

室蘭から持つて行つた安物の防寒着と忿怒神像とを物々交換した若者、八角街路上で会う度毎に親指を立てて良い物と交換したとの仕草、人馴つこい陽気な娘達の笑顔等々憶い出が一杯です。

新聞、テレビ、五月蠅宣伝の騒音から逃れて足の向く儘、気の向く儘の自由な旅で心身共に洗われ、ストレス解消でまたまた体力、気力共に充実して家業にも精が出ます。不愉快解消のため再度旅に出ることでしょう。

駄文で目を煩わした事と思います。失礼します。

〈完〉



左 チベットトルコ石

中央 山珊瑚
右 松耳石

第十九回

北海道ドクターズゴルフ

大会を終えて

大会長

原田 一洋

天候に恵まない大会ではあったが、兎に角終った。一夜明けても何となく身体がぐったりしている。プレー終了後、風呂にも入らずズブ濡れのまゝで懇親会に出席したので、風邪でもひいたのか、何となくだるく、早起きの自分も寢床の中でうつらうつらしてしまった。昨年旭川で行なわれた大会の役員会で、20回大会を節目として札幌が開催する事になり、19回は小樽、函館

室蘭の何れかで開催してほしいと要請された。役員会の分かれぎわに武田三一名誉会長から「兄貴の次は弟の室蘭で（開催しなさい）」と言われた冗談ともつかない言葉が耳に残っていました。やがて九月に入つて、旭川の兄から室蘭でなんとか引受けてくれないかとの電話があり、会員の皆さんと相談して返事をするからといったのが今回の大会になった訳です。

最近の各開催地のお客様の集まり方を見ていますと、大凡百―百五拾名であり、この位の人数ならば18ホールのゴルフ場でも充分こなせるし、申込み数が百名前後なら当医師会員も出来るだけ出場し、百五拾名以上の申込みならば、当地方会員はプレーよりも裏方に専念すると腹を決めました。

各地にゴルフ場が建設され、ドクターズ大会初期の様に、名門ゴルフコースを探してプレーするのではなく、身近かな土地でゴルフが楽しめる様になり、今更重いゴルフバッグを持参してまでの思いが強く、また最近の医療環境の悪化も、お客さんの集りを悪くしていると言えそうだ。また大会も20年ともなると、会員の技術も向上し、ローハンディーの（シングルなどの）人達、腕を競える他の大会（ブロック対抗、クラブ選手権など）に出場する様になってきた。

同好会的な、親睦を目的とした会であったのが、道医の考え方も変わり、次第に大きくなったが性格がハッキリせず、当番医師会の守備範囲、責任範囲も明確にされていない。色々の問題をかかえた今回の大会でしたが、この大会を成功させようという当会ゴルフクラブの情熱はすばらしく各部会について、全体会議では、医師会総会より集まりが良いのではないかと言われるほど熱心に参集していただき、成功裡に終った事を心から感謝申し上げます。室蘭草薬会（室蘭市内の薬問屋さんの会）にも大変なご協力をいただきこれまた深く感謝する次第です。この熱心な人達の為にも、当日は是非晴れてほしかったのですが、雨となった事は非常に残念ではありますが、止むを得ません。

第三回の大会から私は毎年参加していますが、最近は一賞など夢にも考えず、往復の汽車の旅の楽しさ、前夜の未知の土地での散歩？当日の顔見知りに見える喜び、プレーのみならず色々の楽しみ方をして参りました。

大会前後の当会員の動きを見ていると到着時間の連絡、夜の会合の打合わせなどまことにあわただしく、夫々の思いで友を迎え、酒に、ダバリにと、楽しく一時を過してお互の健斗を祈った事でしょう。これ

でよいのではないでしょうか。親睦を主眼とした北海道ドクターズゴルフ大会の意義がここにあると思います。

大会終了後の役員会でも山崎北海道医師会長は、今後も道医主催でこの大会を続ける、担当理事を決めてその性格を明確にして挙行することを明言されました。

生憎の天候ではありましたが、本大会に参加されました全道各地の先生方に、心から御礼申し上げます。また、改めて当医師会、草学会、ゴルフクラブの方々、お手伝いいただいた当会事務局の方々、本当に有難うございました。心から謝意を表しまして御礼といたします。

運営委員長

遠藤 秀雄

第十八回大会が昨年七月十五日、旭川市医師会の手で大雪山カントリークラブで行われている。私は当日北海道精神々経学会が札幌で行われたため、迷ったあげく学会の方に出席していた。従って旭川大会の事情は知るよしもないが、原田先生のお話では第十九回大会は札幌市医師会の順番であったが、第二十回大会を盛大に札幌でやり

たいので第十九回大会は小樽市医師会に引き受けてもらうという内容が理事会で話し合われたと伺っていた。ところが、八月も中旬を過ぎた頃に、小樽も函館も駄目で室蘭で引き受けて欲しいという要請が北海道医師会から舞い込んできた。予想だにしていなかったことで大変な驚きであったが、考えてみると昭和六十年は室蘭市医師会ゴルフクラブ設立十五周年に当り記念事業になること、第九回大会の開催を経験している会員が大勢居られることから引き受けることになった。

原田先生がすぐ室蘭ゴルフクラブの理事さん達に根廻しをして下さり白鳥コースを一日借り切れる見通しがつき、第一回目の会合として五十九年九月二十日に室蘭市医師会ゴルフクラブ臨時総会を開催し、第十九回大会を引き受ける決議がなされ、過去数年の天候実績を睨み合わせて、開催日を六十年七月十四日と決定した。白鳥コースは十八ホールであることから、参加人数も二百四十名を上限とすることにした。五十九年十月八日に室蘭市医師会役員と同ゴルフクラブ幹事で構成された小委員会で大大会役員及び運営委員が決定され、本格的な準備体制が整ったのである。その後大会運営に関する大、小の打合せ会は、実に二十回以上に及んでいるが、会合を開くたびに出席

者が増えて士気が上り、大会一週間前の全体会議は医師会員だけで五十五名となり、和気あいあいの中にも熱気がほとばしり、意を強くした次第である。しかしこれは室蘭市医師会員ばかりではなく、第一回大会からずうっと後援をしてきた武田薬品チームも準備当初は消極的発言が多かったが、流石に手慣れたもので次第に積極的発言に変わり、今大会で初めてスコアカード集計用にコンピューターを持ち込む意気込みを見せるに至ったし、お手伝いをお願いした各薬局問屋の諸君にも大変御世話になった。どんな行事でも準備が順調にいつてもすべて行くゆくとはいえない。今大会でも、各運営委員の御努力により準備は計画通りに進んでいたが、二点ばかり旨くゆかない事態が生じた。その一つは五月三十一日の申込み締切日になっても六十名の申込みしかない。これでは室蘭市医師会のメンツが丸つぶれになってしまう。当初は他医師会の先生方で満杯になり、室蘭市医師会員は出場出来ないという甘い予想を立てていたが大慌て、当医師会員もなかば強制的に出場をお願いし、あらゆる方法で他医師会員の参加奨励を依頼して、最終的には百五十九名の参加申込者を確保することができた。準備が進んでいるのに大会一ヶ月前まで参加人数が把握出来ないということは予

算の立てようがないことであり大変心細い思いをした。二つ目は、自信を持っていた天候が前夜から崩れてしまったことである。それも並の崩れ方ではなく霧と雨のダブルパンチをかまされてしまった。参加者が激減して大会が成立しないのではないかと不安に苛まれたが、流石に道医師会員各位の人格と友情に支えられ、悪天候の中、山崎道医師会長をはじめ百四十八名の先生方が楽しんでプレーをして下さった。心配した程出場人数が減らなかったことで、運営委員一同胸をなでおろしたものである。

悪条件下の競技で大会終了時間が予定を大巾に遅れたことは仕方のないことであろう。懇親会に先立って山崎道医師会長、田村、藤田道医師会担当理事及び今大会役員との間で理事会が持たれ、次年度開催は札幌市医師会に決定、次々期には函館市医師会が候補としてあがった。その他大会運営のあり方についての問題提起もなされた。

ここ三、四年、札幌以外の地方で開催される大会では参加人数が減っている。我々も参加者集めに大変苦労したが、いづこも同じ悩みを持っている。まだ同じ苦労をしても報われるうちは良いが、苦労の仕甲斐がなくなるとどこも引き受け手がなくなってしまう。

今回の様子を見ると、北海道医師会

が関与したのは開催地の決定、補助金を出すこと、大会案内を道医報に掲載すること位であったろう。しかし本来の目的は北海道医師会員の親睦をはかる場にあったはずである。会員であり、ゴルフの公式ハンディキャップを持ってさえいれば気軽に参加出来る雰囲気をつくるのが大切で、広報活動を道医師会にお願いしたいと考える。そのためにも大会長は地元医師会長ではなく、道医師会長が勤めるのが筋であろう。

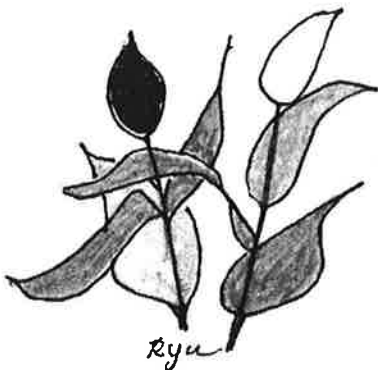
毎年、大会運営の手順として、まず初めに全道各医師会にゴルフクラブ会員の名簿を送ってもらう。その名簿によって大会案内と登録書を出すことになるが、医師会によつては名簿が不備で、案内を受取っていない会員が出てきて苦情が多い。毎年このことであり道医師会が名簿を保管整理して大会案内を出してくれと、ずい分無駄がはぶけるのではないかと思う。また、これまで三年を各地方医師会が担当し四年目毎に札幌市医師会が担当して大会を開催してきたが、何といつても札幌は集り易い場所であり、道医師会との連絡も取り易いことを考えれば現在の比率を変えてもよいのではなかろうか。そして参加者の少い地方の大会には、運営経費の負担を軽くするような柔軟な対応も必要かと考える。

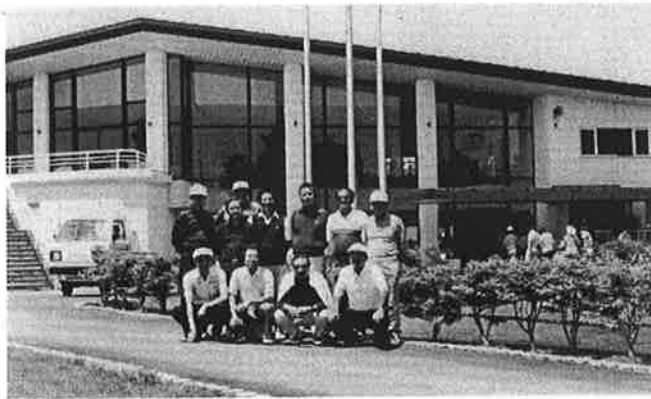
全道各地から会員が集い、プレーを楽し

み親睦をはかる催しは全国的にも例をみないという。しかも来年は二十回目を迎えようとしている。次第に尻つぼみになってしまふのは淋しい限りである。懇親会場でのなごやかな雰囲気、先生方の談笑される姿を見ているとやはりこの大会の火を消してはいけないように思えて仕方がない。

なお今大会のあらましは森川先生が道医報に寄稿しておられるので、なるべく重複をさけたつもりであるが悪筆はお許し願いたい。

最後に今大会の運営に御協力いただいた当医師会員、裏方を勤めていただいた草楽会の皆さんに心から感謝を申し上げる。





親交会旅行ゴルフコンペ 昭和60年6月16日
函館シーサイドコース

函館旅行記

60・6・15—16

岩 倉 秀 夫

生まれて以来病氣らしい病氣をしたのは昭和五十七年六月脳血栓をした時であった。つまった場所がよかったせいか、三ヶ月足らずで退院でき、開業生活に戻ったが、左半身麻痺は残り、リハビリテーションとしては散歩だけで、以来万歩計との交際が始まったのである。最近では一日七千歩が日課である。日曜日など時間のある日は、調子次第で一万歩前後のこともあるが、往きは良いよい帰りはこわいで、歩行の速度は全く往きと違う状態になる。十一月の末から三月の初め位までは冬眠状態、進歩は遅々たるもので、三年経っても旅行、ゴルフも出来ず、退屈な日々を過すのみであった。四月に入って親交会で函館に行くということを聞き、幸い長男が医大から五稜郭病院に出張中で孫の顔も見られると、一石二鳥の思いで出席の葉書を出したものであった。

今年は六月始めから寒い日が続き、六月十五日までの一週間は、雨もないかわり気温も低く暖房が要る始末で、当日の天候が不安であった。ところが、十五日（土）の当日は予想外の雲一つない、からっとした

快晴に恵まれた。幹事長のO先生が挨拶の中で、「旅行は天気がよいというそれだけで半分以上は成功である」と言われたことばに得心したものである。

バスは数年来愛用している道南バスのデラックスバスで、ゆったりした雰囲気は、五時間の行程も十分耐えられる感じがした座席に落着きバスの中を見渡しているうちに、お互いの顔に年齢を感じずにはいられなかった。幹事の先生が、あと数年したら全部六十歳以上になり、当直医が免除になるだろうと云われた。大先輩のH先生は例の大声で、「昼間診療している人は、百歳までは当直をすべきだ」と主張され、当直担当のF先生はご安心といった感じだった。車内で配給されたビールの酔で、車のガタン、ゴトンの音がやや遠くに感じられるようになったところ、小生と函館との関係について述べておこう。

昭和二十八年十一月、当時北大第一内科医局長に函館協会病院に半年間出張してほしいといわれたのは、同年八月国家試験に合格して間もなくであった。十五名程度の同期生は、あっちこっちの関連病院に出張したり、四、五名は在局生として残っていた。函館協会病院は薄給で、国立病院並の安月給を覚悟しなければならぬと驚かされたことを記憶している。初給料は九千円

位であったが、今になって考えると病院の三階に寝泊りし、食費は不要で思ったよりは楽な生活であった。当時の病院は内科医長は北大十六期、外科医長は十七期の先輩まで順番に当直をやっており、晩御飯のあとなどは、当直室で勉強になる話を聞かされたものである。

協会病院は現在も堀川町にあり、繁華街のある松風町までは歩いてみたいとした距離でなく、春先ともなれば散歩がてら歩く人が多かった。

ひまつぶしは主に映画だった。二十九年という年は、後年名作といわれた作品が多く、「グレンミラー物語」、「禁じられた遊び」も観た。大町のセカンド館で見たジーンケリーの「雨に唄えば」は画面がすり切れて文字通り雨が降っていたのを懐しく想い出す。

本来女性的風景が多い噴火湾は、今日も波はなく風いで湖のように見えた。国道五号線の名物の松並木は以前程緑が鮮明な印象を受けない。街が発展したせいか松食虫にやられた故か、淋しい限りである。五時半の予定が六時十五分旅館に到着、記念写真を撮ったあと、九階の各自の部屋に寛いだ。六時四十五分、二階の宴会場に集合して幹事長挨拶のあと、それぞれ楽しく酒を酌み交しはじめた。小生は宴の最中、息子

の家に伺うべく中座した。

息子は公団住宅に居を置いているが、亀田町の方向なので、水田か畠の中と想っていたが住宅やアパートがびっしり建ち並び驚いた。将来函館の中心になるような気がした。函館は昔から物価が安かったが、今は結構高いとの噂に実際に試してみようと思ひ、ホテルへの帰路適当な処に降りる。市電に面した「京寿し」という店に寄って酒一本、寿し十二、三個を食べる。まずまづの味で、千七百円也。室蘭より随分安い感じを受けた。夜の十時頃、静かな街にも憂いゴットンゴットン市電の響は懐しかった。

十六日(日)快晴、暑くなく寒くない六月を代表するような天気である。朝六時ゴルフをする人達が足音を殺して出かける。我々も朝八時バスに集合。前夜のショーの会費を出席者に若干請求、某先生、いくら飲んでも会費は同じだったと聞き、残念がることしきりであった。

第一の目標は、上磯町当別のトラピスト修道院である。国鉄江差線と並行した道路は全く未知の道路であった。函館山を背景として港を一望できる光景は、春霞が薄く棚引き一幅の絵を見る感じである。三、四十分程で修道院に到着する。今まで訪れた観光地と異なり、看板、広告など全くなく

札拝堂と覺しき建物と坂道があるのみである。農場約三百ヘクタール、修道士の姿など全く見当らなかった。湯の川のトラピストス修道院程有名でないせいとか、我々のバス以外に日曜日というのに、二、三台のバスを見るのみで「祈れ働け」をモットーとした別世界を想像し得た。坂道を歩きながら、大きな杉の木立のこぼれ日に、今流行の森林浴の清らかな洗礼を受けて満足した。

十一時、バスは函館駅方向に戻って中華会館前にて下車、重厚な中国建築で、明るい戸外から入った我々には暗い感じを受ける。中央にある関帝廟の前で案内人が説明するには横浜・神戸・長崎に在るものより一番古い建物であるとのこと。ここより数分歩くと基坂。そこは全くの観光地で午前中なのに、既に十数台のバスが並んでいる市立病院も明るくきれいで、凡そ千ベツトもあるうかと思える大きさである。三十数年前勤務したことのあるS先生は懐しくて訪問し、名簿を見せて頂いたところ、一人だけ名前の知った先生がおられたそうで時代の変遷を感じた。

十二時にバスへ集合、幹事長のお話のあと、午後二時半西武の駐車場集合を指示された。初日に幹事の方より昼食用に渡された数軒の著名な店の名簿の中から、基坂

より一丁位の処にある五島軒に行くことにする。今度の目的の一つにグルメの旅を期待していた私は、函館に初めて来たときから有名だった五島軒に迷わず決めた。小生一人と思っていたら、Y先生も知っておられ同行、店に入る。

五島軒本店は、明治十二年から洋食の老舗であるが、三軒して現在の明るいクリーム色の店になり、とても老舗とは思われなかった。まだ時間が早いとみえて、客は我々二名のみである。四十歳台のウエイターが注文を受けにくる。フルコースをみると、一万二千円と八千円のコースがあり、中食のこととて八千円のを注文する。ウエイターが葡萄酒は如何しますかと聞く。適当にと云うと白葡萄酒を持つてくる。後で勘定書をみると、サービスになっていた。スーブ、伊勢海老を含んだ魚料理二種類、肉料理二種類他デザートはクリーム、コーヒでなかなか美味で流石と思われる。また一品づつ運ばれてくる料理のタイミングがよく、長い年期の入った老舗の良さをつくづく感じた。小一時間かかって我々の食事が終わった頃は空いている席がない程で、Y先生と二人が函館で一番の御馳走にありついたのでなかったかと、しごく満足であった。棒二デパートで土産物を買ひ、Y先生と別れる。バスに五時間揺られる自信

がなく、一人函館駅より帰路に着いた。

山 本 健 三 郎

毎年の事乍ら、幹事、役員諸先生方の献身的準備とお世話により企画された今年度親交会親睦旅行「函館観光ゴルフとグルメの旅」の標題に釣られて、日頃出不精の小生も今回ばかりは色々な目的と期待を秘めて参加した……と云うのは、現在私の勤務先は函館検疫所室蘭支所であり、昨年来二度函館を訪ねてはいるが何れも会議と安上り大衆割烹に於ける役所の懇親会が主体であり、車で街中を案内して貰った事はあるがどこも素通りで方向観念もさっぱり解らず、各所を降りてゆっくり眺めると云う訳には行かなかった。もつとも何年か前の同じ親交会主催の函館旅行にも参加してはいるが、その時の記憶も断片的で、泊った宿とトラピスト位は覚えていたが美味いものを喰べた記憶は無い。何れは転任を命ぜられて自分の住まいの地となるかも知れない函館を、少しつぶさに事前調査して置こうと云う下心であった。

当日は幹事諸先生の日頃の心掛けが報いられたのか、暫くぐづついていた天気もカラッと晴れて絶好の初夏の香り、午前中の

役所の勤務から真直ぐ直行して午後1時市役所前の出発場所にギリギリ到着した。待受けた道南バスのデラックス車に度胆を抜かれ乍ら、車の後部には四角いソファーク式のコーナーもあったが其処はお偉方かお年寄りに譲る事として、前夜遅く迄来客と共に中島町廻りの疲れやや残る小生は、車の中程のシートを占めて目的地迄ゆっくり寝て行く事とした。トイレ付きのバスではあるがトイレは物置になっていると聞いて、小用のやや近い我が身を心配はしたが、もつと年寄りもいる事だし途中でどこでも止めて用を足せると云うので安心した。

車は出発し、予定の市内各所で参加者を拾って国道37号線を一路函館へ向う頃、カワイコチャンバスガイドの黄色い童声がやや気になりはしたが、途中配られた缶ビールの威力も借りて、先づは函館行往路仮眠旅行に概略成功した。

午後5時45分、バスは予定より約15分遅れて目的地函館湯川観光ホテルに到着した到着前に車中で部屋割りの札を貰ひ、小生イビキぐせの為に個室を申込んではいたが個室は少く過去の実績と身体障害者優先との事であきらめていた。ところが部屋に着いて見たら大きな室内に布団が一つしか敷いて無く、間違えたかなと思って何度も部屋番号と札を照らし合わせて見たが、どう

やら若くしてチョンガの小生に対する担当幹事さんの至れり尽くせりの心遣いと気が付いて、有難く先づは浴衣に着替え布団の上に乗に大の字にゴロツと横たわったものである。

宴会開始予定が午後6時30分との事なので、大浴場でザツと一風呂浴びてから大広間の会食場へ顔を出した。大勢のきれいどころも加わり、型通りの会長、役員の挨拶と乾杯の後、待っていましたとばかりアルコールをおかずにして山海の珍味を一気喰いの様な形で空きつ腹に詰め込んだ……と云うのは、実は時間の関係で昼食を抜いていたのと、もう一つは当日所も同じ函館市で道南産婦人科合同研修会並びに懇親会が開かれて居り、不参加の小生も二次会・三次会にはいつ呼出されるか解らないからであった。

思案に違はず、宴が始って略々30分もした頃、大広間の横の電話に呼出された。函館市内で開業している札医大産婦人科後輩のY先生からである。産婦人科懇親会の方も一次会の宴たけなわであるが、皆が待っているのですぐかけつけろ、会場の函館ロイヤルホテル迄は車で約15分との事。あと30分の猶予を願ったが承諾を得られず、意を決して席を離れる事とした。後で聞いた事だが、親交会の宴の方はそれから後が盛

上り、大変愉快で楽しかった相で残念したと思っている。産婦人科医学会の方は会場に着いたら早速挨拶をやらせられ、仲間と松風町近辺に二次会・三次会を廻って、宿に戻って来たのは午前一時過ぎ、フロントに朝の目覚しを頼み、ボタン・キューで翌朝迄白河夜舟であった。

翌朝も快晴で、サツと一風呂浴びてバイキングの食事を済ませ、バス出発時刻の午前8時30分にピタリと間に合って、函館市内及び近郊の観光に参加した（ゴルフは遠征してやる程の上手でも気違いでも無いので申し込んでいなかった）。当別の男子トラピスト修道院を散策し、市内に戻って大町の中華会館、更に近くの重要文化財旧函館区公会堂を見学したが、小生余り歴史、文化、芸術には詳しく無く地図を片手にもっぱら地理的方角観念を研究し乍ら、公会堂手前の市立函館病院の中に入って内部をさつと眺めて来た。

前日宿に着く前に、グルメの旅にふさわしく昼食代金一封と案内の印刷物を配られ昼食は各々自由との事であったが、どの店が良いか見当もつかなかったので、前夜の産婦人科の会でその印刷物を示して函館の連中に聞いて見た処、洋食なら末広町の五島軒本店、印刷に載っていないが和食を食べなければ西浜町の古稀庵と聞いていた。

昼食の時刻となり、バスが各所を廻って夫々希望の場所に降ろすと云うので、グルメの旅でもあり誰か仲間が居れば五島軒と考えていたが、一番最初に末広町に寄って五島軒前で岩倉先生が一人だけ降りたので小生も迷わず後に続いた。店内は落ち着いた一流のレストラン風で数種類のコースメニューがあり、代表的なコースとワインを頼んで岩倉先生と雑談しながらゆっくり舌つづみを打った。感想はベリーグッドで、後で他の店で食事をした何人かに聞いて見たが、五島軒を選んだ事は誤りでは無かったと思っている。

昼食後、岩倉先生が疲れるから列車で帰ると云うので、タクシーで駅迄行つて別れた後、お土産を探しに歩く事とした。実は出発前に勤務先の函館に詳しい職員に聞いて見た処、函館からのお土産のお菓子はクッキーでもバター飴でもなく、「函館山」と「黒船」と注文されていたので、どんなものかも解らずに駅前の棒二デパートに入った。「函館山」はすぐ見付かったが「黒船」が見当らず、売場の女店員に聞いたらデパートでは扱って居らず、近くのみずず本店と云う処で売っていると場所を教えて呉れたので、すぐ直行して用を足した。

昼食後の集合場所は午後2時30分西武デパート前で大分時間があるので、駅前から

若松町を通って海岸町の港湾合同庁舎（函館検疫所が入っている）迄どれ位の距離があるか散歩して見た。市電も通っているが地図で見たらすぐの様な気がして歩いたら結構の時間がかかり、海岸町からタクシードで集合場所へかけつけた。

帰途は早朝出発したゴルフ組と合流し、あらかじめ応募していたトトカルチョの優勝予想も見事にはずれて、旅の心地よい疲れにウトウトとまどろみながら、長万部の平和祈念館で小休止の後、予定よりかなりおくれて午後8時近くに帰宅した。天候に恵まれ、日頃一人暮らしの退屈をかこっている小生にとって久し振りに満喫出来た楽しい旅であった。

松原 初男

胆振西部医師会より六年振りに、又室蘭市医師会に復帰しました。医師親交会に再入会するや、早速、湯の川一泊旅行（六月十五・十六日）に参加しました。昔の仲間に出会いたいという気持ちからでした。

各先生方の精進が良かったせいか、当日はとても良い天気でした。中村医院横より高島先生、黒光先生、岩倉先生、森川先生と一緒に、バスに乗りました。バスは西独

製最新鋭の背の高い観光バスで、内部はデラックスで、まるで応接室に居るような気分でした。

白鳥台を過ぎると、車内では、早速カンビール、水割り、ジュースが配られ、夫々好みの物を飲みながら、噴火湾を左手に見て、談笑しながら、或は、ゲームをしながら、函館に向けて車はひた走りです。途中長万部で、大きなドライブインで小休止しました。各自、用を足し、一寸した買物をして、車は、一路湯の川へと走り続けます。亀田を過ぎる頃より、夕方のラッシュとなり、目的の湯の川観光ホテルに着いたのは夕闇せまる午後六時半でした。

七時から、直ちに宴会に入りましたが、皆さん、日頃の忙しい生活からくつろいだせいか、飲む程に、食べる程に、盛り上りをみせ、歌が出たり、踊りが出たり、それは賑やかでした。

九時半頃部屋に引揚げましたが、何となくもの足りなく、一つ隣の部屋で、原田前会長等と、麻雀を一チャンだけやりました。明日のゴルフに備えて、十一時半頃ベッドに入りました。二次会、三次会をやられた先生方もあったようです。多分宴会コンパニオンの、函館美人が気に入ったせいでしょう。

翌日は六時半に、タクシード、函館シー

サイドカントリークラブに行きました。好きなゴルフとなると、皆さん、早起きも苦にならないようでした。コースは、ホテルから二十分位のところで、海岸に面した、なだらかな丘陵で、うつ蒼とした林に囲まれていて、本州のコースを思はせました。何よりもうれしかったのは、当日は、快晴であつたことです。

予定より三十分遅れて、八時にアウトよりスタートしました。皆さん張り切っていました。何せ、二人一組で、ゴルフ競馬がかかっているからです。これは、畠山先生の発案で、昨日バスの中で、一組から五組までの中で、優勝、準優勝の組を当てる連勝式の馬券（一口五百円）が売られたのです。私も、一組（畠山・児玉）を本命として、五組までを流し買いました。私は二組で、皆川（兄）先生と一緒にでした。

スタートホールは、三五二米の、打下ろしのミドルです。私の第一打は、右二百米位のラフにゆきました。五番アイアンの第二打は、砲台グリーンの手前十米位にゆきました。ピッチングでの寄せは、ピン奥四米位につきました。下りの難しいパットですが、寄せてボギーでよいと、楽な気持ちで打ったのが幸して、うまく決って、パーを拾いました。一緒に組の、皆川（兄）、森田の両先生は、ボギーでした。出だしが良

かったせいか、二番ボギー、三、四番パー
パーと続き、誠に調子良かったのですが、
五番ショートホール、三パットのダボ、六
番ミドルは、OBを出して、ダブルスコア
の八と、スコアーをくずし始めましたが、
以後気を引き絞めて、総てボギーにおさめ
ハーフ四十五で、まあまあの出来でした。

インに入っても、大体ボギーペースでし
た。十六番のショートホール(百四十二米)
では、一打がピンそば十糧位について、何
なくバーディーをとりました。最終十八番
も、三打でグリーンを、わづかに外しまし
たが、アプローチが、あわや入るかという
位、カップのふちに止り、パーにおさめて
四十六で、グロス九十一で廻り、まあま
あの出来でした。

ハウスで集計した結果、優勝は児玉先生
(グロス九十ハンデ十八ネット七十二)、準
優勝松原(グロス九十一ハンデ十九ネット
七十二)でした。お蔭で①②の連勝馬券
も当り、三千円の配当を貰いました。おい
しいビールを飲み、食事をすませてから、
又タクシード、観光組との打合せ場所であ
る西武デパート駐車場へ、二時半きっかり
に戻りました。

全員元気に、バスで帰路につきました。
途中、長万部で、平和祈念館を見学しまし
た。よくあれだけ集めたものと、その努力

には敬服しました。

中島町本庄医院横に着いたのは、予定よ
り三十分遅れの、七時半でした。

今回はほんとうに、楽しい旅でした。浩
然の気を養うのも、長生きのひけつかと思
います。次回を楽しみにしています。

函館シーサイドC・C

優勝の弁

児玉 直彦

恒例の親交会旅行は函館の観光とグルメ
加えてゴルフを楽しむ会として6月15日実
施された。

私はゴルフの部へ参加したがその顛末に
ついて書くと編集子からの命で重い筆をと
った次第である。

昨日迄肌寒く戸外へ出る気にもならな
かった天気、雲一つない日本晴れ、気分ル
ンで車中の人となった。程なくして畠
山先生から、ゴルフをする人も、しない人
も全員が参加して楽しみたいと表1、

2に示される組合せと各人を馬に見たてた
枠順に従い馬券ならぬ人券を募集(予想外
の投票があった)した。またその短評は各
人の核心をつき流石(の眼力)という巷の
声が大きかった。このため各選手は今晚は
早く寝る、酒はホドホドに、麻雀を慎めな
どの有言無言のプレッシャーを受けること
になった。

宴席の詳細は割愛するとして、名調子の
カラオケを聞き、抱腹絶倒の仲居さんの踊
りを見ながら各選手は存分に酔い翌日の英
気を養った。温泉に来て満足に風呂に入っ
たためしはないの喩えど、卓を囲む者
グルメの追求に……各人各様、しかし十二
時頃には夫々の厩舎に戻った。部屋で先に
寝ていた斉藤(義)、大久保先生を起し、森
川、畠山先生らと午前二時迄飲みかつ大い
に語り合った。うつらうつらする間もなく
五時半、シヨボつく目を見開くと空は澄み
わたり最高の日和りである。ひと風呂浴び
タクシード海岸沿いを走ること二十分余り
小高い丘陵につくられた「函館シーサイド
C・C」につく。五七二米、パー七二、ア
ップ、ダウンの可成り激しい、狭いコース
ながら杉木立が奇麗で、白鳥コースの柏に
見なれている目には新鮮で良く手入れされ
ており箱庭的な感じが強い。フック、スラ
イスは殆どO・B、強打で長距離を誇る者

にはこれまた突き抜けてO・Bになるというトリッキーなコース設計である。

ハーフを終ったの成績は皆悪戦苦闘の連続ながら松原先生が-1で予想通りの飛び出しであった。二十分位休憩し、最後の頑張りを期待してインに向う。

同伴の鴨井先生は黙々と一球一打に精魂を込めて、森川先生は珍らしくO・Bに悩まされスコアをまとめるのに苦労している。斉藤先生は飄飄とマイウエイのゴルフを展開、私は後半大変調子が良く自分でも信じられない43のスコア。

キャディーさんは親しみのある函館弁で話しかけ、室蘭を離れてゴルフをしているという実感が強く、ストレス解消にはうってつけであった。十七番ホールに來ると右手に臥牛山（函館山）、前面に津軽海峡と下北半島が遠望され、函館の街並が交叉して素晴らしい景観である。景色を楽しみ、逃げていくような白球を追いつつ、アツという間にホールアウト。早速十九番でお互いの健闘を称えてビールで乾杯する。

成績（表3）は私と松原先生がパープレイであったが、ハンデ上位が優先するという医師会ルールに則り、私が思いがけなく優勝の栄に浴することが出来た。これ偏に良きパートナーに恵まれたお蔭と昨夜来の寝不足による体力消耗が幸いし、普段トツ

プで力が入りすぎて球の行方が不安定であるのに反し、今回は絶妙にコントロールされ不思議な程真直ぐ飛んでいたためと考えている。また今冬は例年になく毎週のように家内とスキーを楽しんだため知らず知らずの中に下半身が鍛えられ、ドライバーの飛距離が非常に伸びたことも好結果を生んだ一因なのであろう。

ともあれ人券投票の一番人気に応えられ諸先生の期待に沿えたことは望外の喜びである。

帰路車中で、栄えある賞品を戴き、優勝の感激に浸る。

今回の親交会ゴルフも大変楽しく、私にとって忘れ得ぬ印象深いものとなった。

（別表1、2、3）

表1

親交会ゴルフスタート表

1 組	畠 山 8	皆川(芳) 11	原 田 20	大久保 28
2 組	皆川(和) 9	松 原 19	森 田 36	
3 組	森 川 11	児 玉 18	鴨井(一) 23	斉藤(義) 40

表 2

連勝複式投票枠順

		H. C	本紙 多田 ホシ	一回医師会	二回医師会	短 評
①	畠 山	8	△ △		1 位 N69	好調だがコース不向短かすぎる。
	児 玉	1 8	△	5 位 N74	N81	技術上昇堅実
②	皆 川(和)	9	△			不調期待薄
	松 原	1 9	○			公営の雄、中央初登場実力のほどは？
③	森 川	1 1	◎ ◎		2 位 N70	安定度、No.1 本命
	原 田	2 0	△		N76	調子上向き本人も期待
④	皆 川(芳)	1 1	△		6 位 N72	フック打ちOB連発か？
	嶋 井(一)	2 3		B B N98	N83	体調、スコアーも上昇これに絞って猛特訓
	斉 藤(義)	4 0			N98	H. C どう生かすか？参加に意義あり
⑤	大 久 保	2 8		9 位 N78		ラウンド回数少なく練習不足
	森 田	3 0			N81	まだはっきりした成績はないが底力あり

予 想 オ ッ ズ

() は投票数

①—①	3 倍 (8)	②—②	12 倍 (6)	③—④	5 倍 (6)
①—②	5 倍 (15)	②—③	6 倍 (10)	③—⑤	5 倍 (2)
①—③	2 倍 (24)	②—④	7 倍 (4)	④—④	12 倍 (1)
①—④	4 倍 (10)	②—⑤	7 倍 (1)	④—⑤	6 倍 (2)
①—⑤	4 倍 (1)	③—③	10 倍 (9)	⑤—⑤	15 倍 (1)

表 3

成 績 表

PLAYER	OUT	I N	GROSS	H. CP	NET	RANK
児 玉	4 7	4 3	9 0	1 8	7 2	1
松 原	4 5	4 6	9 1	1 9	7 2	2
畠 山	4 3	4 1	8 4	8	7 6	3
皆 川(和)	4 2	4 3	8 5	9	7 6	4
嶋 井	5 3	5 1	1 0 4	2 3	8 1	5
大 久 保	5 4	5 5	1 0 9	2 8	8 1	6
森 川	4 7	4 7	9 4	1 1	8 3	7
原 田	5 4	5 0	1 0 4	2 0	8 4	8
森 田	6 4	6 0	1 2 4	3 6	8 8	9
皆 川(芳)	4 7	5 5	1 0 2	1 1	9 1	1 0
斉 藤	7 4	5 7	1 3 1	4 0	9 1	1 1

〈連 勝：1—2〉

編集室へのお便り

前略「波久鳥」第五号をご惠贈下さいまして誠にありがとうございます。

いろいろな形でご存知の先生方のご活躍振りやご趣味の豊かさ。そして医師会の歴史など、この本からは本当に勉強させていただいております。

益々のご発展お祈り申し上げます。不

室蘭市幕西町一番一号 稲月螢介

(59・11・24)

拝啓 本日「波久鳥」を御惠送賜わり誠に有難うございました。図書室に保管し、末永く活用させていただきたく存じます。

取急ぎ御礼申し上げます。

帯広市東三条西十一丁 帯広市医師会

(59・11・26)

(前略) 此の度は又「波久鳥」第五号をわざわざ御送付下さって有難く受領し深く感謝して居ります。これから暫らくは私の農閑期に入りますので先生方の素晴らしい御労作をなつかしく楽しみに読ませて頂きます

(中略) 畑作物の収穫も終り来月は蜜柑の取入れが楽しみです。南房州はこれからの冬が老人には天国で晴天の日が多くて、ガラス戸で囲まれた日光浴室に居ると、ポカポカ暖くて寒さ知らず居眠りするには最適です。(後略)

千葉県千倉町瀬戸二二六〇 高橋清藏

(59・11・27)

此の度、私共まで会誌を御送り頂き有難う御座居ました。ことに写真を見つけて御世話になった諸先生の面影をなつかしく拝見致しました。心より御礼申し上げます。

日立市大久保町一の三 稲葉 真

(59・11・26)

拝啓 初冬の候愈々御清祥の段お慶び申し上げます。

さてこの度は貴会親交会々誌「波久鳥」第五号の御惠贈に預り厚く御礼申し上げます。瞥見いたしましただけでもその内容の豊かさ質の高さ驚嘆いたしております。

じっくり読ませていただくと共に本会図書室に備え会員一同勉強させていただきたいと存じます。

先ずは取り敢えず御礼まで 敬具

船橋市海神、船橋市医師会

会長 山崎芳久

(59・11・29)

此の度は波久鳥御送付下され厚く御礼申し上げます。

貴医師会を十年以上も前に離れました小生にまで御送付下さいまして驚くと共にその有難さに感激致しました。楽しく拝読させていただきますました。貴会の益々の御隆盛を祈ります。

亀田郡七飯町鳴川42の11 益田祐治

(59・12・3)

師走も半ばになりましたお寒さも加って参りました。

この度はお心にお掛け下さりお立派な会誌をお贈り頂き恐縮にございます。諸先生方お元気に御活躍の御様子にフト去りし日々を振り返りなつかうございます。

有難うございます。厚く御礼申し上げます。

札幌市北区新琴似七条 木谷静子

(59・12・7)

編集後記

秋も深まり初雪の便りもチラホラ聞かれ波久鳥をお届けする時期がまいりました。今年は全道ドクターズゴルフ大会とか、東北・北海道医師会病院臨床検査センター連絡協議会の開催とか大きな行事があり、皆さん夫れ夫れにお忙しいところを沢山の原稿を寄せて頂き有難うございました。

本誌も創刊以来6号を算え回を追うごとに質量共に内容が豊富になり、硬軟とりまぜ読み応えのある会誌になったと思うのは身びいきのせいでしょうか。

巻頭の親交会記念アルバムに続けて旭川優佳良織工芸館の木内綾女史（本誌2号参照）の御麗筆を飾らせて載いた。木内女史の御札状が余りに達筆なので原文のまま見て戴こうという意向です。

前回誌面の都合で割愛させて頂いたシリーズ物の「大正つ子物語」「かなり古いお話」「チベット弥次旅行記」を今号にまわしましたが、その間に小雲水、北原先生が亡くなられました。謹んでご冥福をお祈り致します。

硬いところで竹内先生の「漢方医学とベルクソンの哲学」漢方医学の現代的意義を

ベルクソンの哲学的思考に見出す論説で本誌の格調を一段と上げて頂きました。

菊入先生の「成人病検診のすすめ」高齢化する会員への御忠告、松田先生の「医者が出る幕……」よくある話の中に先生の人柄がにじみ出ておりこれからも勤務医の先生からの投稿を期待しております。

安齋先生の「ぼうふら考現学」藤兼先生の「日本飛び歩く記」趣味もここまで徹底しなければ本物ではないという感じで今後庭を見ても、オーケストラの指揮を見るときも見方が少し変わるのでは？

恒例の座談会、今回は自他共に認む？る室医四奇人による放談会ということになることかと少々心配しながら半面興味津々と席に着いたが、司会の加藤先生の巧みなリードで無事終着駅に着きました。

原稿を寄せられた先生方、座談会に出席された先生方、殆ど一手に編集を手掛けられた加藤治良先生そして大久保先生に厚く感謝申し上げます。

（沢山 豊記）

親交会会誌

波久鳥

発行日 昭和六十年十一月十日
発行所 室蘭市医師親交会
印刷所 室蘭印刷株式会社